

【社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会】

2022 年（令和 4 年）度 事業計画

（2022. 4. 1～2023. 3. 31）



Tsunagu Nara

～ INDEX ～

I : 理念	3
II : 基本方針	3
III : 運営方針	
1. 障害者支援の充実	
2. 専門性の高い支援の提供	
3. 経営基盤に向けた取り組み	
4. 人材育成・定着にむけた体制整備	
5. 地域福祉の推進	
IV : 2022 年(令和 4 年)度重点取り組み課題	4
V : 運営事業 MAP	7
VI : 組織図	8
VII : エリア及び事業別事業計画	
<高取エリア>	9
1. 障害者支援施設「やすらぎの丘・たかとりワークス」	
①生活介護事業	11
②施設入所支援事業	20
2. 生活介護事業「スクラム」	21
3. 生活介護事業「クオッカ」	26
4. 就労継続支援 B 型事業「パン工房マツダ」	32
5. 共同生活援助事業「ひなた荘」「ホームヴィレッジ」	35
6. 相談支援関係	
①相談支援事業「りあん」	37
②障害者就業・生活支援センター事業「ブリッジ」	39
③奈良県障害者総合相談圏域支援事業	43
<奈良エリア>	46
1. 就労継続支援 A 型事業「チェリッシュ」	48
2. 生活介護事業「野の花舎」	50
①日中一時支援事業(市町村事業)	
3. 共同生活介護事業「はなばたけ」	53
①短期入所事業	
4. 相談支援関係	
①相談支援事業「りあん」…上記<高取エリア>に記載	
②障害者就業・生活支援センター事業「コンパス」	55
<本部>(総務)	60
VII : 年間研修計画	61
VIII : 年間行事予定	62
IX : 年間開所予定日・職員勤務日	63

I：理念【地域で 地域と共に歩み 生きる】

II：基本方針～地域から必要とされる、信頼ある組織になるために～

1. 主体性の尊重：その人らしく生きること。人生の主人公であり続けること。
2. 地域福祉の積極的な推進：地域から必要とされること。役割を果たすこと。
3. 信頼ある法人運営：安心・安全を提供できる法人であり続けること。

III：運営方針

1. 障害者支援の充実

- ①利用者の意思決定支援を中心に、個別支援計画の質の向上とサービス等利用計画との有機的な連携を図りながら、利用者本人が充実した日々を送れるように支援します。
- ②高齢化や有病率の増加により、医療と福祉の高度な連携が求められています。それぞれの役割を明確にしながら、関係機関との連携を図っていきます。
- ③新たなグループホームの設置や日中活動環境の改善等を図り、利用者ニーズに即した支援が提供できるようにします。

2. 専門性の高い支援の提供

- ①強度行動障害のある方に対する支援スキルの獲得をすべての職員に求め、利用者に応じた適切な個別支援ができるようにします。
- ②高齢化等に伴う医療的ケアの必要性のある利用者に対して、継続的な支援ができるように、喀痰吸引など必要な支援スキルを計画的に獲得させます。
- ③個別支援計画等を職員間で共有し、チームでの支援を基本とした体制作りを行います。

3. 経営基盤に向けた取り組み

- ①法人全体でコスト意識の向上を図ります。
- ②リスクマネジメントを強化し、法令遵守のためのマニュアル作成を行います。
- ③委託費・委託先、備品購入先・方法など、すべての取引について再検討を行い、経費削減を図ります。
- ④事業形態や人員配置等を見直し、効率的かつ効果的な事業運営を図ります。

4. 人材育成・定着にむけた体制整備

- ①CO会議において人材育成に関する協議を定期的に行い、職場内研修を計画的に実施すると共に、外部研修への積極的な参加を推進します。また、虐待防止にむけた常設の検討会をL会議で開催し、良質かつ適切な支援の実施に向けた人材育成を行います。
- ②新規採用職員に対するチューター制度の導入と経験年数に応じた計画的な職場内研修を実施します。
- ③年 2 回の面談を通じた職場環境の改善と、円滑な組織内のコミュニケーション

ンを図ります。

5. 地域福祉の推進

- ①複数法人との地域食堂の開催やリサイクル資源の回収等の日々の活動を通して、地域ニーズの把握と解決に向けた支援を行います。
- ②災害発生時におけるマニュアルを整備し、地域住民の受入れや福祉避難所の開設に向けた近隣市町村との協議を進めます。

IV：2022 年(令和 4 年)度重点取り組み課題(※はすでに実施中のもの)

1. 感染対策の徹底

新型コロナウイルス感染症を含む対策の徹底

- ・職員の感染対策(技術と知識)の確認(※)

2. 人材育成・確保

★組織力向上アドバイザーの雇用(非常勤雇用)

- ・育成プログラムの確立(指名制度によるエリート教育)
- ・若年層の求人強化

支援スキルと職業倫理性の向上

- ・個別支援計画及びモニタリング内容の充実(研修会の開催等)
- ・人間性を高めるための思考機会や情報の提供

3. 農福連携事業の充実

★農福マネージャーの配置(常勤雇用)

- ・収穫物のブランド化による商品価値の向上
- ・栽培方法等の改良による参加利用者の増大

4. 地域生活支援事業等の充実

新規グループホーム整備と入所機能の充実

- ・2022 年(令和 4 年)度施設整備補助金(※令和 3 年度中に申請済)決定時における入居者決定等の利用に至るスキームの整備
- ・短期入所事業機能の充実に向けた人員配置、等の検討

地域生活支援拠点機能の整備に向けた市町村との共同

- ・緊急時短期入所の受け入れ、一人暮らし等の体験事業実施の検討(※)

5. 支援環境の整備

- ・本館設備(エアコン・トイレ・床等)の改修(2 カ年)
- ・「クオッカ」等、事業所の IT 環境整備等(※)
- ・奈良エリアにおける活動環境再編の検討(※)
- ・老朽化施設の移転等による環境整備
- ・老朽化車両の入れ替えによる安全対策の強化

6. 財政再建に向けた事業形態等の見直し

- ・定員変更による給付単価の増収(※)
- ・各種契約内容、業務委託先等の変更(※)
- ・利用率の向上にむけた新規利用者確保

新型コロナウイルス集団感染(クラスター)の発生から1年が過ぎたが、その後も第五波、第六波と一時的な小康状態が現れるものの、変異株の出現等により感染拡大がなくなる気配がない。すでに、法人利用者や職員の多くが3回目のワクチンを終えてはいるものの、これが絶対的な感染防止の有効手段とはならないようである。法人利用者の多くが何らかの基礎疾患を抱えており、感染における身体リスクは非常に高い。国内産の予防薬の開発が進められているので、大いに期待したい。

新型コロナウイルス感染症に加え、世界情勢の不安定さもあり、今後の国内外の動静に引き続き注視しなければならない。まず、直接的な問題としては、ワクチン接種や感染対策に要した財源の補填である。長く続く景気低迷の中で、今後も大幅な税収の増大は期待できないため、社会保障費に関しても、自然増の部分を除くところで整理・圧縮が予想される。これまでも、障害者の就労支援による自立援助、医療的ケア等の充実等、障害のある方のニーズに応えるという名目で、重点分野により多くの予算を割り振る施策が実施されてきたが、今後はそれをより効率化または成果化主義的傾向にシフトしていく恐れがある。すでにB型事業等で取り入れられているが、これをすべての事業に拡大していく可能性がある。つまり、支援の効果を点数化し、それによる加算方式をとるのではないかと懸念している。もちろん、すべての支援を点数化することは不可能であるが、その一部を数値化することで評価し、事業者間のサービスの質の差を明確にすることにより、支援の質の向上を名目とした実質減算を図るのではないかと予想している。更に、既にグループホームの小規模施設化で見られるように、人員確保等を理由にスケールメリットを重視した施設の大規模を推奨し、「小規模における丁寧な支援や家庭的な雰囲気での生活支援」を目指した従来の方針を転回する可能性もある。これら動きに対して、利用者の生活及び人生の豊かさをどのように確保していくか、法人の運営者としての手腕が問われていると思う。

間接的な問題としては、海外情勢の不安定さによる経費の増大である。事業活動に必要なガソリン代や電気代が高騰している。本法人は「地域で地域と共に歩み生きる」を理念とし、地域での活動を積極的に展開している為、多くの活動費を必要としている。利用者と職員が積極的に地域で活動することにより、多くの地域住民が法人の活動を理解し、障害のある方の生活に興味・関心を寄せてきた。また、家族等ではできなかったことを職員と共に経験することにより、新たな可能性を発見できた利用者もいる。法人としてこの活動方針に変更はないが、今後はより一層経費の削減に向けた工夫が求められる。

法人の今年度の事業について、2021年度(令和3年度)も、新型コロナウイルス感染症に振り回され、当初予定していた活動がほとんどできない状況であった。2022年度(令和4年度)においても、先行きが見えない状況ではあるが、この間の感染症対策等で得られた見地を活かし、利用者大切な時間に充実した支援を提供していきたい。

財政再建と利用者の活動空間の確保を目的として設置した高取エリアの生活介護事業所2カ所(「スクラム」と「クオッカ」)は、結果的に感染対策としても非常に有効的に機能させることができている。一部の利用者においては、感染対策の徹底という観点から、本来の

活動場所とは違うところでの活動をお願いしており、不便をかけているが、国内の感染状況等を注視しながら、本来の活動に戻していきたい。

高取エリアにおける新型コロナウイルス感染症集団発生から、高取エリアの利用者及びその家族には大変な不安と不便をおかけしている。特に、入所利用者やホームヴィレッジ利用者については、一時帰省を再開したものの、再び自粛に協力をお願いするなど、ご家族にも寂しい想いをさせてしまっている。

日中活動についても、感染拡大が起こるたびに感染力の増大がうわさされたため、生活のほとんどを寮又はホーム内で過ごすことになっている。散歩や軽作業等に従事をしていただいているものの、本来の活動とは言えず、一日も早い活動復活を考えている。

そこで、本年度は感染対策も踏まえた上での活動の展開を検討し、実施することとした。利用者ニーズを中心とした活動内容の提供を行いつつも、感染拡大時には迅速に対応できるような体制を確保した内容になっている。

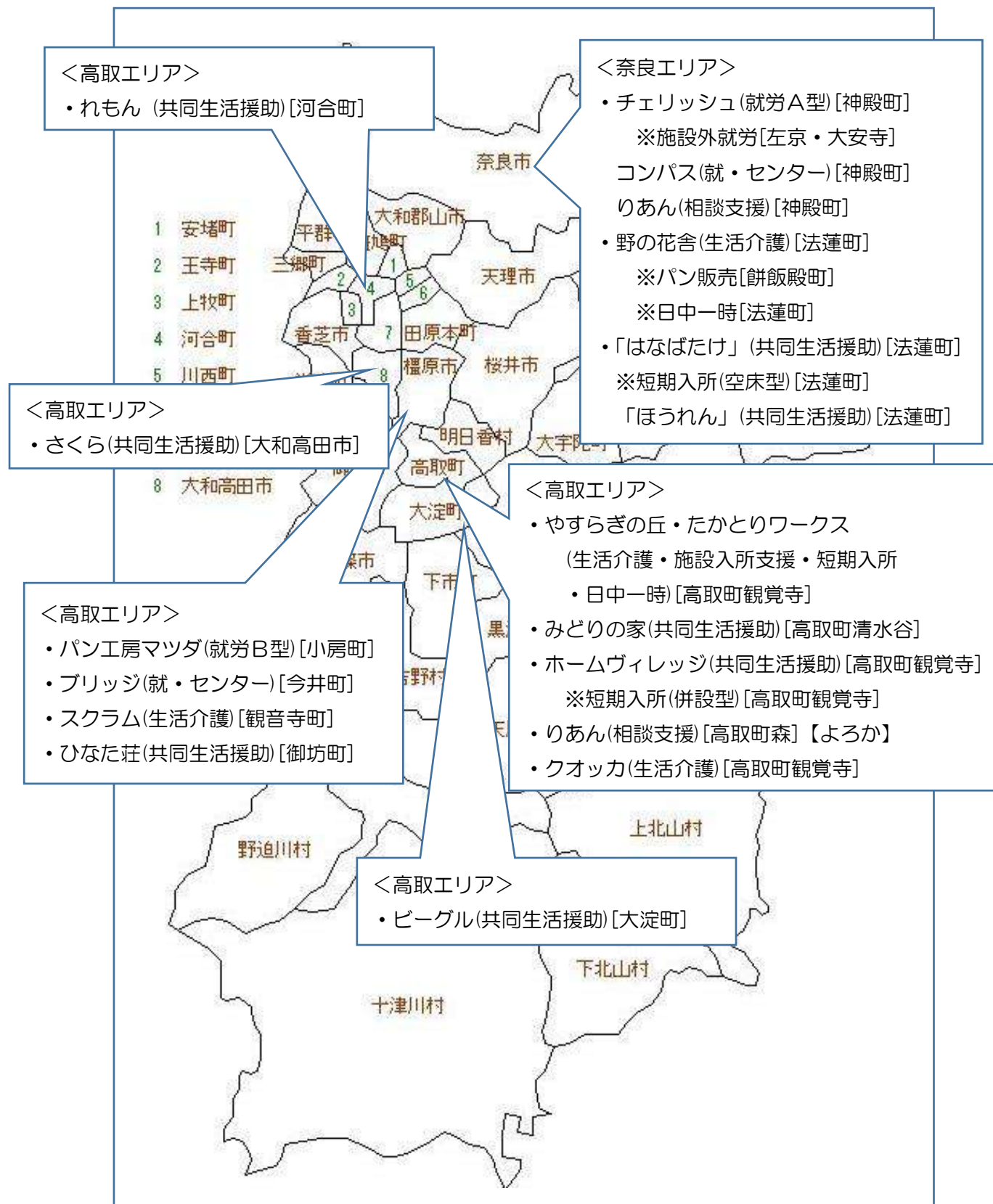
財政状況については、順調に改善が進んでいる。新規事業所開設による給付費単価の増大に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による帰省の自粛等により、給付費収入が安定したことや、活動を縮小したことによる経費削減がその要因である。ただし、感染症対策に係る費用は増大しており、今後の状況によっては厳しくなる恐れがある。人材確保や育成の進捗を判断しながら、新規利用者の確保に向けた動きも積極的に行い、給付費収入の安定化につなげる。特に奈良エリアについては、事業改善計画の早期実施と事業改善により、エリアにおける運営基盤の強化を図っていく。

人材確保については、引き続き非常に難しい状況にあり、特に若年層の職員が不足し、職員の年齢階層に極端な偏りが改善していない。継続的な法人運営と支援の充実の為には、若年層の人材確保と次世代のリーダー養成が急務となっています。法人内における研修体制を整備すると共に、外部研修の積極的な活用を行い、定着率の向上を図りたいと考えている。

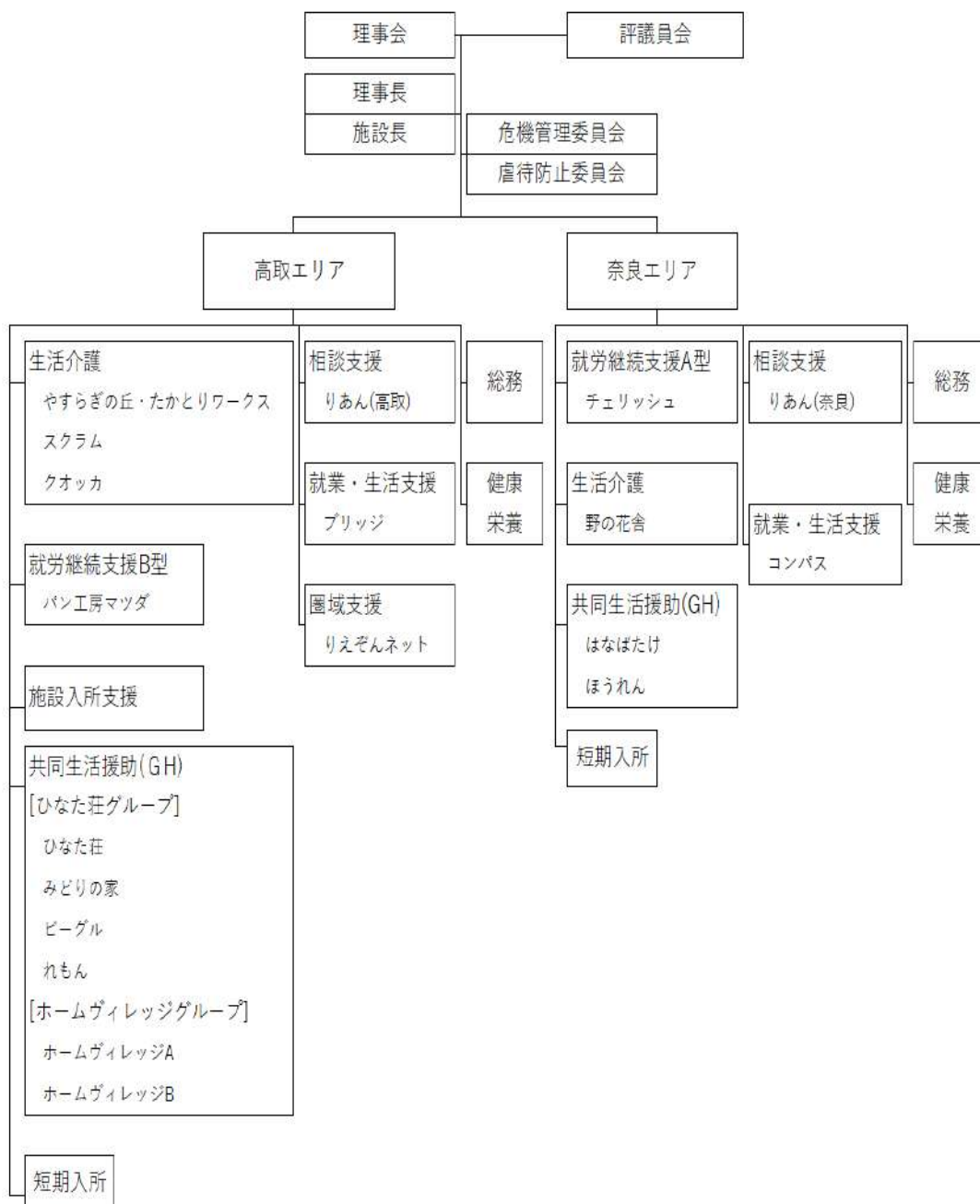
人材育成について、経験年数に応じた法人内部の研修体系を整備しながら、積極的に外部研修を活用するとともに、定期的な面談により職場環境の改善や支援スキルのフォローアップを図っていきたいと考えている。また、二度と虐待を起こさせないように、普段の支援における気付きを職員間で共有できる仕組みの導入や、虐待防止研修を定期的に行っていく。外部からの講師派遣依頼については、人材育成の1つの機会として積極的に活用していく。

法人の運営については、新たな評価制度の導入や、社会福祉士や保育士等の養成実習の受入れを積極的に行い、透明性の高い運営と外部意見の活用を図ります。実習については、受入れマニュアルの整備や指導担当職員への研修などを実施し、実習内容の充実と指導の質の向上を行う。

V：運営事業 MAP



VI：組織図



Ⅵ：エリア及び事業別事業計画

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	生活介護事業所 たかとりワークス
担当職員数	25名【栄養士、看護師、運転手、非常勤含】
利用者実績	43名【概数】
令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること。	【令和3年度活動目標】『笑顔』 (利用者、支援員、家族、施設に関係する方々の笑顔溢れる日常) ※利用者ニーズに沿った支援ができたか、家族と連携・連動した支援ができたか、部署間での共通認識を持ち支援ができたか、支援員が目標を持ち充実した仕事をするのができたか等を評価基準とする。 ●新型コロナウイルス感染防止及び予防により、臨時の班体制を継続しています。その為、各班報告書に当初目標・内容と異なるところがあります。 【令和3年度活動内容】 ・臨床心理士と月1～2回のケース相談を行う。昨年度に実施していた「心理ケア会議」及び「発達検査」「発達検査のフィードバック講義」に関しては感染拡大の観点から自粛し、個別での相談のみとした。支援内容に取り入れた支援は、振り返りの場を設け、職員の共通認識にした。 ・言語聴覚士(ST:月4回)を活用し、専門職の視点からのアドバイスを支援に取り入れる。研修(勉強会)を一度実施した。 ・音楽療法士(週2回ミュージックセラピー:個別セッション、集団セッション)を活用し、専門職の視点からのアドバイスを支援に取り入れる。昨年度とメンバーを入れ替え、新たに個別セッション枠を取り入れ実施した。各拠点でミニコンサート実施。12/16 クオッカ、12/22 本館2階、1/19 スクラム。演奏を得意とする職員が歌唱等を行い、利用者が「音楽に触れる」機会を全体的に作った。楽しむだけではなく、利用者それぞれの反応を見たり、支援の幅を広げることを目的とした。 ・昨年度に続き、高取町社会福祉協議会からの『歳末お掃除隊』の依頼を受け、11～12月に高取町内で応募のあった家庭へ、施設より掃除部隊を派遣した。 ・日中余暇プロジェクトの実施 12/1 ミュージカル「劇団四季」鑑賞会への参加。他部署(ブリッジ)にも応援要請をかけた。 12/29.30 入所利用者を対象に館内イベントを開催。書初め、カラオケ大会、新年に向けた工作、映画鑑賞(つどいを映画館風に見立てて)、ぜんざいの振る舞い等を行った。 ・感染拡大防止のため、月一回の日中職員会議の代替とし、グループ長会議を開催。※各班をグループ分けし、代表職員10名、日中L、SLで行う。 ・令和3年度新人職員研修に日中SLが講師(日中活動、支援等について)として参加。 ・通所利用者と入所利用者を分けた形を継続し活動を展開している。 入所利用者は本館2F・よろか・木谷加工にて活動及び休憩場所として使用。 通所利用者は本館つどい・クオッカ・スクラム・つぼってい～(令和3年10月から)・木谷加工(入所利用者と部屋を分ける)・パン工房で活動及び休憩場所として使用。 ・今年度は買い物等の店舗を利用する際には、マスクが着用できる利用者限定となっており、出来ない利用者は支援員が代わりに購入する等の配慮を行った。 ・余暇活動では、各班で感染症対策を行い(石橋L、長谷部SLがその度に確認)実施。外出は極力控え、館内でできる内容で工夫をして実施。 ●各班活動に関する詳細については別紙記載。 【令和3年度活動評価・成果】 ・臨床心理士と担当支援員とで、現班体制の支援、場所を含めた配慮の面に関

	して、現状報告及び相談を行い、支援に繋げた。各利用者の担当職員、班メンバー、拠点が急に変わったが、アドバイスを頂きながら進めることが出来た。効果や成果も各支援員よりあがっており、支援の幅が広がった利用者もいた。 ・音楽療法士とのミュージックセラピー（以下、MT）を定期的に行えた。支援にあたる日中支援員対象に、MT報告会も行い、成果を皆で確認し、支援内容に組み入れ、支援を行うケースが増えた。利用者の動き出しや興味、周りを意識する等の成果が見られた。 ・言語聴覚士と担当支援員でカンファレンス・直接指導を定期的に行い、食事トレーニングや食事形態を見直す等、食事環境が改善出来た。勉強会もあったため、疑問や相談等もその機会に直接聞くことが出来た。 ・昨年度に続き、高取町社会福祉協議会からの歳末掃除依頼を受け、謝礼（一軒一時間 2,000 円）があり、参加利用者に対しては工賃で分配した。各家庭内の掃除をしてもらいたい場所（庭掃除、窓拭き、掃除機掛け等）に対し、利用者を派遣し掃除を行った。今年度は様々な制限（感染症対策）を設けた中の実施であったが、利用者からは「また行きたい」「楽しかったわ」の声も出ていた。各ご家庭の方々からも感謝の言葉を頂き、利用者の「自信」と「交流」にも繋がり、法人が掲げている『地域で 地域と共に歩み 生きる』の理念にも沿うことが出来た。また、地域社会が抱えるニーズへのアプローチとしても、利用者と共に取り組むことが出来た。工賃の微増にも繋がっている。 ・活動自粛や制限等を昨年度以上に設けたが、活動の工夫をしながら、一人ひとりのニーズに沿い、出来る範囲での支援内容や活動プログラムを計画し、その中で見えた新たなニーズや、今まで職員が「これはできないであろう」といった固定概念から、提供を控えていた活動内容にも挑戦する機会を作り、利用者の順応性や可能性を引き出す結果となった利用者もいた。逆に混乱した利用者もいたが、その度に利用者個別会議等を開き、利用者自身が進んで取り組める活動内容を提供し、押し付けにならないことを支援員は念頭に置き、配慮を行うことで、現班体制での活動を展開している。 ・活動場所（活動拠点）を変更した利用者もいたが、前担当支援員からの引き継ぎも行い、多角的視点から支援内容を構築した。高取町の壺阪山駅付近の一軒家（平屋・借家・名称：つぼってい〜）を新たな活動拠点として使用。様々な「刺激」が軽減されたことにより、利用者のやすらぎや過ごしやすさにも繋がっていた。但し、良い面での刺激（他者交流）は減少されている。 ・日中余暇プロジェクトでは、外出だけではなく、「今だから出来る」余暇活動をPJメンバーで模索。年末に新たなイベントも行い、利用者の反応も良く、毎年の恒例行事として取り入れても良いといった意見が出ていた。 ●日中活動班からの評価・成果は別記載。
令和 4 年度事業実施に むけた課題	・コロナ禍体制で見えた、新たな利用者ニーズに沿った、通常活動提供再開に向けた準備。（現在、通常体制再開の目途はたっていない） ・利用者一人ひとりに合った環境整備。 ・個別支援計画と実際の支援内容とのズレ。 ・地域ニーズに対する、日中活動の在り方。 ・医療面の支援が必要な利用者が年々増加している。 ・専門職、他部署との連携。 ・「法・連・相」を継続して行う。（単発で終わり、情報共有がなされない） ・支援員同士のコミュニケーション。 ・支援員の支援の質の向上と柔軟な対応。 ・支援員のフォロー体制。 ・社会人としての心構えと自覚。 ・連絡システムの再確認。 ・支援員の有給休暇と突発的な休暇とのバランス。日によってだが、支援員数

	が足りない日（有給休暇、体調不良、家庭の事情、通院同行等が重なり）もあり、他部署応援、活動の変更等を行い対応している。 ・家族へのアプローチ及び報告。
令和4年度活動目標	『笑顔』 利用者・利用者家族、支援員、地域の方等の施設に関係する方々の笑顔溢れる日常生活を作る。 ※利用者ニーズに沿った支援。 家族と連携・連動した支援。 部署間での共通認識を持った支援。 各支援員及びチームで「考え」「学び」「実行する」集団を作る。 支援員が目標を持ち充実した仕事をする。 ●各班の活動目標等の詳細については別紙記載。
令和4年度地域との関わりについて	・企業を通じての社会貢献や社会参加の促進を継続して行う。 - 令和4年度はワキ製薬（ミミズの飼育：漢方として使用）との共同プロジェクトを日中活動に取り入れる。 ・資源回収作業を継続して行う。 ・地域ニーズや地域課題を汲み取り社会貢献を行う。 （例、高取町福祉協議会からの依頼、地域イベントの共催やイベント参加等） ・実習生（教育実習、介護等体験等）の受け入れ。 ・公共機関を利用した外出（新型コロナウイルス等感染症の状況による）を定期的に取り入れる。
担当職員数	26名【栄養士、看護師、運転手、非常勤含】
予定利用者数	43名
概ね10万円以上の備品要望	リサイクル作業場での機械類の老朽化に伴う機械新設。 車両が古くなってきており、買い替え。（事故以外の修理が増えている）
支援内容の充実に向けた取組について	・余暇プロジェクトを定期的に行う。 ・利用者一人ひとりのニーズ確認と班編成の見直し、支援内容の振り返りの時間を設ける。 ・支援会議、ケース会議の活性化。 ・個別支援計画の質の向上に向け、定期的なモニタリング会議・個別支援会議の再開。 ・支援員不在時（休暇・通院対応・緊急時対応・会議等）のフォロー体制と支援内容の全体周知（支援員が代わっても支援方針がブレないように） ・支援員間のコミュニケーションと対話。 ・各活動場所等にL・S Lが定期的に現場に入り、支援内容の確認を行う。 ・内部・外部研修（オンライン研修含む）に職員を派遣する。 ・支援員の休憩時間、年次休暇等の確保を行い、リフレッシュできる環境を作る。 ・オンラインを使用した各事業所、拠点との連絡や情報共有。
その他	・昨年度より通所利用者の送迎時間・場所・ルートも臨時体制期間は変更。今年度は、一名のG Hれもん入居（令和4年1月31日）に伴い一部送迎時間・ルートを再変更。 ・たかとりワークス（生活介護事業）のサービス管理責任者が令和4年1月付人事異動より石橋 L に変更される。

（作成者：石橋直幸）

2021 年度「リサイクル A 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：辻本 梅田 井阪

利用者数：6名

活動場所等：本館会議室、はたらく部屋A、リサイクル作業場(古澤倉庫)

1. 2021 年度活動目標

- ①外出の楽しみを作り、仕事のモチベーションへと繋げる。
- ②利用者の団結力を伸ばす。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①週一回（コンビニ等でのおやつ購入）は毎週楽しみにしている一つであるが、余暇としての楽しみの方が強く、仕事へのモチベーションへとは繋がっていない。
- ②コロナ禍体制で班体制が変わったこともあり、仕事や活動の団結力より個々での役割をもってもらうことの方が多かった。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・作業（活動）内容の充実
- ・医療面の連携（日中、寮、医務）

4. 2022 年度活動目標

- ①個々にあった活動の提供
- ②班全体で行う活動（余暇）の充実

5. 目標達成に向けての留意点

- ①現在の状況として、例えば、農民連の新聞折りの作業について、それぞれが出来る仕事（折る、渡す、挟む等）で役割を担ってもらっているが、その作業が難しいメンバーに対しての支援がほとんど出来ていない。今後は、それぞれのメンバーができることを再度検討し、作業内容が難しいメンバーに対しては別プログラムも考える。
- ②余暇として、買い物や公園以外にも身体を動かす体操を取り入れたり、班全体で楽しめるゲーム（雨天時）、また季節に合った創作活動（壁面用）等、活動の幅を広げたい。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見	7 月：	10 月：バーベキュー	1 月：
5 月：お誕生日会	8 月：	11 月：	2 月：お誕生日会
6 月：	9 月：お誕生日会	12 月：クリスマス会	3 月：イチゴ摘み

2021 年度「リサイクル B 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：森下・鈴木

利用者数：6名

活動場所等：リサイクル作業場(古澤倉庫)・本館2階(はたらく部屋A)

1. 2021 年度活動目標

- ①リサイクル班としての団結力や良い面を引き出す。
- ②利用者工賃の取り組みの再開と外出等の楽しみによるモチベーション向上。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①リサイクル作業・余暇活動を通して、団結はできている。また、班メンバー各自が主体的に活動に取り組んでいる。
- ②工賃の取り組み再開（工賃の給料袋での支給）はできていない。外出等に関しては、コロナ禍や活動内容（野菜の納品）による制限はあるが、その中で継続して行っている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・医療面での連携。
- ・個別対応を必要とする班メンバーのニーズ、それ以外の班メンバーのニーズとのバランス。また、それらの両立と実現を図りつつ、いかに活動を充実させていくか。
- ・個々の班メンバーの個性と関係性を考慮しつつ、活動を充実させていくか。

4. 2022 年度活動目標

- ①リサイクル活動で工賃を貯めて、旅行に行く事を目指します。
- ②昨年度再開できなかった工賃の給料袋での支給再開を目指し、それを班メンバーのモチベーション向上に繋げていく。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①リサイクル活動時、個々の班メンバーの個性や関係性を考慮して一人一人が仕事に集中し、また仕事を楽しめる環境を提供していく。
- ②一部班メンバーには、活動により得た工賃を好きな事に使ってもらう事で楽しめる取り組みをしていく。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見	7 月：七夕会	10 月：バーベキュー	1 月：
	→お菓子作り		
5 月：	8 月：	11 月：日帰り旅行	2 月：
6 月：	9 月：お月見	12 月：クリスマス	3 月：
	→団子作り	忘年会	

2021 年度「回収A班」活動報告(案)及び2022 年度活動計画(案)

担当職員：笹岡 森 天野 高橋

利用者数：8 名

活動場所等：資源回収先、本館はたらく部屋C

1. 2021 年度活動目標

- ①利用者の作業能力を活かし、回収量の多い場所に回収に行けるように、他の班との調整を図る。
- ②班のメンバーが変わることにより、部屋での過ごし方を考え、落ち着いて過ごせるような空間を作る。
- ③コロナ禍が落ち着けば、以前していた買い物やお店に食べに行くことをする。栢森以外での過ごし方を考え、公園などに行くなどの活動範囲を増やす。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①資源回収に行く場所を他の班と調整をした事もあり、回収量を確保できた。以前より活動の幅も広がった。
- ②班メンバーの待機部屋が変わったが、特に混乱なく過ごされている。休憩時間にはDVD鑑賞、音楽をかける等も行い、個々に応じた過ごし方が出来ている。
- ③コロナ禍のため、買い物や店舗に行くことが出来ていない。しかし、栢森に行くだけではなく、利用者からのリクエストで公園などに行く事が増えている。公園ではそれぞれの過ごし方で過ごされている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・余暇活動(外出：買い物、外食、調理実習等)の充実。
- ・利用者個々の支援内容の見直し。

4. 2022 年度活動目標

- ①コロナ禍ではあるが、感染状況が落ち着いてくれば、以前のように外出に行くようにし、出掛ける場所の幅を広げる。
- ②コロナ禍で買い物に行く機会が減り、スーパーやお店で買い物がしにくい状況ではあるが、感染状況をみて少しずつ取り入れるようにする。
- ③利用者個々に合った支援内容を提供する。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①②コロナウイルスの感染状況によって、出掛ける場所を考える。
マスクの出来る利用者にはマスクを着用してもらう。
- ③強度行動障害の方々が多数いるため、個々に応じた支援内容を班職員、他部署職員と情報・支援方針の共有を図る。定期的に会議の場を設ける。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見	7 月：BBQ	10 月：誕生日会	1 月：誕生日会
5 月：公園でお弁当	8 月：川遊び	11 月：誕生日会	2 月：いちご狩り
6 月：誕生日会	9 月：誕生日会	12 月：誕生日会	3 月：誕生日会

2021 年度「回収 B 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：鍵谷 阪中(か) 木村

利用者数：7 名

活動場所等：資源回収先 本館 2 階（はたらく部屋 B）

1. 2021 年度活動目標

- ①地域の人たちとの関わる機会を、資源回収作業を通して増やし、新たな回収先と関係性を増やして行く。
- ②新型コロナウイルス等の感染症に気をつけながら、資源回収活動に取り組んで行く。
- ③利用者のチラシ配りや資源回収等の活動参加頻度を増やす。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①地域の方々との関わりは、資源回収作業を通して、少しずつ持てるようになっている。
- ②感染症対策は、マスク着用・手指消毒を行い活動に参加しており、定着している。
- ③班の編成が変わり、作業に参加(定着)出来なかった利用者もいたが、日課になっている利用者もあり、資源回収場所増加、チラシ配り等と新たな取り組みにも混乱なく挑めていた。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・新しい班に変わって、資源回収作業に参加出来ている人、いない人がいる。皆で一緒に作業参加は難しいが、個別でもすべての利用者が参加出来るように考えて行く。
- ・新しい作業として、個人宅等への「チラシ配布(ポスティング)」にも参加できるように利用者個々に合った提示方法や支援内容を考える。

4. 2022 年度活動目標

- ①資源回収作業に参加できる利用者を少しでも増やして行く。
- ②今年度も引き続きチラシ配りを行いながら地域交流を図る。
- ③利用者と一緒に余暇活動の計画を立てる。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①地域の回収先での積み込み作業だけでなく、荷下ろし等の作業等から経験を重ね、一人でも多く、地域での資源回収作業に参加出来る様にする。
- ②班編成が変わったため、初めて活動に参加される利用者への提示方法を考える。
- ③利用者の言葉に耳を傾け、職員主導ではなく、利用者主導で行う。個々での対応も検討する。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：花見	7 月：お誕生日会	10 月：紅葉	1 月：初詣
5 月：お誕生日会	8 月：バーベキュー	11 月：ドライブ	2 月：たこ焼き
6 月：お誕生日会	9 月：お誕生日会	12 月：お誕生日会	3 月：イチゴ狩り

2021 年度「回収 C 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：作本 松本 佐藤裕

利用者数：3名

活動場所等：つどい、資源回収先（高取町、橿原市周辺）

1. 2021 年度活動目標

- ①新しい環境(班・場所移動により)になるべく早く慣れてもらう。
- ②落ち着いて日中活動に取り組んでもらう。
- ③回収先の地域の人たちとコミュニケーションを図る。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①当初に比べ、利用者各自が新しい環境に慣れてきている。
- ②当初に比べると利用者各自が落ち着いて日中を過ごせるようになってきているが、その日の調子や場面での切り替えの時などに自傷、他害行為が見られる。
- ③作業には頑張っているメンバーも居るが、回収先の人とのコミュニケーションを図ることがまだ思うように出来ていない。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・環境には慣れてきているが、場面での切り替えが苦手で調子を崩す時が見られる
- ・自傷、他害行為が出てしまう場面が多く見られる。
- ・作業には取り組んでいるが、地域の人たちとの関わりが少ない。(全員では作業の取り組みは出来ていない。)

4. 2022 年度活動目標

- ①回収作業では、利用者の特性に応じ、役割分担をして参加頻度を上げる。
- ②班活動の内容を充実する。(余暇活動の充実)
- ③地域の方々と今よりもコミュニケーションを図れるようになる。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①作業を分かり易いよう提示し、一緒に取り組むことで混乱なく取り組めるようにする。
- ②感染症対策、手指消毒の徹底をして余暇活動を楽しんでもらう。
- ③職員が間に入り挨拶等地域の人たちとコミュニケーションを図れるようにする。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：	7 月：	10 月：	1 月：
5 月：	8 月：	11 月：	2 月：
6 月：	9 月：	12 月：	3 月：

2021 年度「チーム南木班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：南木・太田

利用者数：5名

活動場所等：本館2階（通所・入所相談室）

1. 2021 年度活動目標

- ①健康第一に過ごす。
- ②笑顔で活動する。
- ③旅行に行く。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①感染症を含め、医療面で治療を要する利用者はおらず、体調面においては「元気」に過ごされ、日中活動に取り組むことが出来ていた。
- ②定期的に外出等の余暇時間も取り入れ、笑顔で過ごせる日が多かった。日々の活動（内職作業、リサイクル作業等）の際にも、利用者個々に合わせた作業内容を提供し、「自信」を持って取り組まれていた。
- ③全国的なコロナ蔓延の為、実施できず。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・引き続き健康面での配慮を行う。
- ・利用者個々の「楽しい」と思える活動を提供する。

4. 2022 年度活動目標

- ①内職作業（ウエス・農民新聞等）・リサイクル作業（P T ラベル剥がし）等、利用者個々の得意としている活動を継続して行う。
- ②体調面に気をつける。
- ③作業以外の「楽しみ」を提供する。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①各メンバーに合った作業目標を設定する。
- ②利用者個々の様子をしっかり観察し、異変があれば医療に繋げる。
- ③利用者自身が「写真」や「絵」を見て、行きたい場所などをしっかり意思表示できるように支援を行う。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月： お花見	7 月： バーベキュー	10 月： 外出	1 月：
5 月：	8 月：	11 月：	2 月：
6 月：	9 月：	12 月：クリスマス会	3 月：

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	施設入所支援事業
担当職員数	18名(常勤、非常勤)
利用者実績	47名
令和3年度活動目標とその評価	【令和3年度活動目標】 ①個別支援計画に基づくチームでの支援体制。 (非常勤スタッフも含む、モニタリング会議・他部署との個別支援会議。) ②客観的に根拠に基づく専門的な障害特性支援計画作成と運用。 各種プロジェクト・会議への積極的参加を通じて意見が反映される組織にしていく。 勉強会・研修会を開催し、学びの機会を作る。 【令和3年度活動内容】 ①全体的なイベント(バーベキューやクリスマス会等)の企画・実施。 ②利用者に関する他部署(各寮、日中含む)を交えたケース会議を実施。 ③強度行動障害者支援・記録の記入について。 【令和3年度活動評価・成果】 利用者の生活に楽しみを持ってもらえるようにイベントなどの実施。 コロナ禍にいたるため外出は出来ない状態の為、各寮でおやつ作り(調理実習)等の工夫をして行った。蔓延する前には散髪は少人数で外出し、職員も1~2名で行くようにした。
令和4年度事業実施に向けた課題	①利用者情報、法人動向等の情報の共有。(部署間・寮内) ②若手職員の育成。(できる限りの研修への参加。必要時の指導。) ③労働時間の改善。(長時間労働の是正・会議等の参加への時間の確保。) ④他部署との連携を図る為、職員間での情報の共有。
令和4年度活動目標	①各部署との連携を強くしてよりよい支援を出来るように支援内容を統一できるようにしていく。 ②各職員が積極的に研修会などに参加してスキルアップを図る。 ③会議などを出来る範囲で行い参加を通じて意見が反映される組織を目指す。
令和4年度地域との関わりについて	コロナ過で出来ることは限られるが出来る限りボランティアなどに参加し地域住民との関わりを持っていく。
感染症対策	①感染症マニュアルをもとに感染症対策に取り組む。 ②定期的に消毒、換気、清掃、(職員はうがい)、手洗い、消毒の徹底。 ③個人での体調管理。 以上を組みとする。
担当職員数	18名
予定利用者数	47名
支援内容の充実に向けた取り組みについて	各利用者のモニタリング会議、ケース会議の実施。
その他	

(作成者 阪口慎一郎)

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	生活介護事業所 スクラム
担当職員数	14名(非常勤・兼務を含む)
利用者実績	18名[概数]
①令和3年度 活動目標とその評価 ※令和3年4月1日 ～令和4年2月末ま でで記載すること	【令和3年度活動目標】 [畑班] ・各月ごとに季節のイベントを開催し、見通しを持ちやすくする。 ・ワクチン接種後は、野菜の納品、清掃活動、イベントの参加等で地域の方々と関りながら社会経験を増やしていく。 ・感染症対策をし、体調管理をする。 [Colors班] ・野菜販売を継続していき、地域の方々と関係を広げる。
	【令和3年度活動内容】 [畑班] ・コロナ渦で外出自粛の為、テイクアウトを中心によりか内でベントを開催した。食べ物には目がないメンバーなので、給食とは違う特別な昼食を喜んでいた。畑作業以外で施設外へ出ることが難しく、納品に行くことが一つの楽しみであり、息抜きにもなっていると感じる。一年を振り返るとそれすらままならない状況の時もあり、社会経験に繋げることが難しかった。 ・夏の暑さ、熱中食予防対策として空調服を要望し、導入。利用者、職員全員に着用をしてもらい、好評だった。作業効率も上がったと思われる。 ・10月に延命保育園の栄養士らが来訪され、畑の野菜を食材で利用したいとの申し出があった。12月16日に第一回目の納品(人参とねぎ)を行っている。納品には、利用者と共に出かけている。今後も継続される予定である。 ・11月に延命保育園2歳児が芋掘りに訪れている。利用者も一緒に過ごし、芋のツルの片付けなどを行っている。施設外の方と触れ合える良い機会になったと感じている。
	梅収穫体験 入園料 300円(3歳以上) 500円/kgで販売 5月下旬から6月にかけて開催 のべ5回開催し、5団体が利用
	芋掘り 10月 延命保育園(一回)
	野菜納品先 高取社協、富田屋、こもれび、Matuyama Café、旬の里、 ゲストハウス遊山 (130円/個) 個人 5名 (120円/個) 延命保育園 (給食の食材として) 月1回
	[Colors班] 5月より野菜販売を再開した。新型コロナウイルス感染対策として、駐車場にテントを立てて、屋外での販売を行っている。ポスター、フェイスブック等で

	宣伝を行い、利用者家族、近隣の方、通りかかった方が購入してくれている。 販売再開に伴って、Colors 班の活動内容の見直しも行った。畑班の野菜を売るだけではなく、もう少し畑事業に携われるようにと会議を持ち、袋詰めの作業も行うことになった。それぞれ利用者が役割分担をしながら、楽しく取り組んでいる。 7月に賃貸している物件の大家さんが逝去された。契約を含めた書類関係の手続きを施設長、総務で行っている。また、新たに屋外に洗濯機を設置するための工事を行った。 【令和3年度活動評価・成果】 新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、収穫体験や利用者が参加できるイベントが中止されるなど、なかなか施設外の場所で利用者と共に活動を行う事が難しい1年だった。 しかし、その中でも以前から繋がりにある延命保育園から食材提供の依頼を受ける、昨年度よりさらに納品先が増えるなど、畑班の野菜に対する需要は増えていると感じる。今後の活動について、職員の業務、利用者の業務の見直しをするために会議を2回開催している。新たに Colors 班で野菜の袋詰めを行うことを決め、納品先の振り分けを見直したことで、利用者の取り組めることが増えた。 梅の収穫体験、芋堀は例年通り行えた。大盛況に終わっている。芋堀では、利用者が堀ったあとのツルを片づけたり、子どもたちと交流することが出来た。 毎年、梅の収穫に来られている「えびす企画」より商品パッケージの絵を利用者に描いてもらえないかと依頼があった。法人全体に声をかけ、数点の作品を提供している。今後、本当に商品パッケージとなるのか、楽しみである。 トラック市の再開は出来ず、地域に向けた販売の機会が減ってしまったのは、残念だ。スクラムの野菜販売も訪れてくれる方が限定されており、外出を控えるという風潮もあってか、客足は、遠のいているのが感じられる。
②令和4年度事業実施にむけた課題	・畑の仕事量、内容を事業所全体で把握し Colors 班の役割を明確にしていく。2班のバランスを考えて活動内容を見直す。 ・利用者の「できる」を発見し、活動に取り入れ、活躍の場を多く作る。
③令和4年度活動目標	・スクラム事業所を多くの方に知ってもらう。 ・毎月楽しめるイベントを計画して実行し、その中で利用者の「やりたいこと」「できること」を見つけ、一人一人が活躍できる活動を行う。 ・農作業、野菜販売を中心に地域の方との関りを深める。そして社会経験を増やしていく。
令和4年度地域との関わりについて	・現在の取引先での納品を継続していく。 ・時期をみて収穫体験の実施を再開する ・店舗販売と納品を中心にスクラム事業所・青空831の存在を広く知ってもらい、地域との関わりを広げる。
担当職員数	14名
予定利用者数	18名
概ね10万円以上の備品要望	
支援内容の充実に向けた取組について	毎月のイベントの内容は、利用者の意見を聞いて計画に取り入れて実行する。利用者が地域の方々とふれあえる機会を適宜もうける。交流を深め、野菜を喜んでもらっていると肌で感じることで作業の意欲につなげる。
その他	

(作成者：長谷部まゆき)

2021 年度「Collars(スクラム)班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：東條、吉田、米谷、清水、辻村

利用者数：11 名

活動場所等：スクラム

1. 2021 年度活動目標

- ①野菜販売を継続し、地域の方々との関係を広げる。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①毎週金曜日に野菜販売を行い、利用者が接客を行った。野菜を購入するだけでなく利用者に会いに来てくれるお客様もいた。
- ②野菜販売のために野菜の袋詰めやシール貼りの仕事も行った。
- ③販売以外にも納品の仕事も行っている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・野菜販売・納品の仕事の継続、畑事業とのさらなる連携の仕方を模索する。
- ・個別の活動の提供
- ・季節ごとのイベントの開催

4. 2022 年度活動目標

- ①野菜販売を継続していき、地域の方々との関係を広げる
- ②誕生日や季節ごとのイベント開催
- ③利用者一人一人に合わせた個別の活動の提供及び畑事業と連携し、活動の幅を広げる。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①感染症対策を十分に行い、利用者が接客をし、地域の方々との関係を築いていく。
- ②イベントを開催する時には、職員だけではなく利用者がイベントの内容を考え、準備ができるようにする。
- ③一人一人ニーズも特性も違うので、新たな活動も取り入れながら、各々に適した個別での活動を提供する。

※新型コロナウイルス等の状況に合わせてながら、随時活動の変更等を柔軟に行っていく。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：誕生日会	7 月：誕生日会	10 月：誕生日会	1 月：誕生日会
5 月：いちご狩り	8 月：誕生日会	11 月：昼食お弁当注文	2 月：節分
6 月：昼食お弁当注文	9 月：誕生日	12 月：クリスマス会	3 月：誕生日会

2021 年度「畑班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：尾上 岩上 庄司

利用者数：6 名

活動場所等：よろか、青空 831、巽畑

1. 2021 年度活動目標

- ①各月ごとに季節のイベントを開催し、見通しを持ちやすいようにする。
- ②ワクチン接種後は、野菜の納品、清掃活動、イベントの参加等で地域の方々と関りながら社会経験を増やしていく。
- ③感染症対策し、利用者の体調管理をする。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①月ごとのイベントに関しては、外出等は達成出来ていないが、テイクアウトで食事を楽しむイベントは出来た。
- ②ワクチン接種後もコロナ禍で活動の自粛は続き、施設外の活動が縮小されたことにより、地域へ出る機会が減ったため、社会経験を増やすことが難しかった。
- ③感染症対策は出来ていて、利用者は健康に過ごすことが出来た。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・旅行や外出を再開するときのために、徐々に外出等に慣れていく。
- ・畑での収穫体験再開に向けて作付けをし、多くの方がまた畑を訪れてくれるように利用者、職員ともに協力して作業に取り組む。

4. 2022 年度活動目標

- ①作業でも余暇活動でもそれぞれの力、個性が十分に発揮でき、一人ひとりが主役になり、活躍できる班になる。
- ②コロナ禍が少し落ち着いたらコテージ等の感染リスクの少ない場所での宿泊体験をする。それに向けての準備として余暇活動を実施し、通常とは違う活動に慣れていく。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①夏場は熱中症、冬場は風邪等に気をつけ、体調管理を行う。利用者の主体性を尊重し、個々に応じた支援内容を提供する。
- ②外出再開、宿泊体験に繋がるような人とコミュニケーション出来る機会、社会経験を増やせる余暇活動を行う。感染症対策を引き続き実施する。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：花見	7 月：七夕	10 月：ミニ運動会	1 月：初詣
5 月：バーベキュー	8 月：川遊び	11 月：焼き芋	2 月：豆まき
6 月：誕生日会	9 月：バーベキュー	12 月：誕生日会	3 月：誕生日会

2021 年度「木谷加工班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：永島

利用者数：5 名

活動場所等：木谷加工作業場

1. 2021 年度活動目標

「一人ひとり楽しみを見つけながら、新しいことにも挑戦していく」

- ① 地域の方と交流ができること 給料アップができることを探す
- ② みんなが「やってみたい」「行きたい」ということを取り入れる
コロナウイルスの状況にもよるが「旅行に行きたい」「ユニバーサルスタジオジャパンに行きたい」(メンバーさんの希望)
- ③ 体操、ストレッチを取り入れる

2. 年度末進捗・達成状況

- ① コロナウイルスの感染予防のため地域の方との交流はできていない。
給料アップは内職関連ではあったが、他の方法は見つかっていない。
(内職関連は単価が低い)
- ② 外食、一日外出、旅行はコロナウイルス感染予防のためできていない。
「テイクアウト」「調理実習」「夏祭り」等は班内で行った。
- ③ 作業の段取りや職員体制でできないこともあったが、可能な限り行った。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・作業(内職)だけではなく、月一回は必ず余暇活動をつくる
- ・給料アップができる方法を探す
- ・一人ひとりと関わりや話を聴く時間をつくる(個別で話をする機会が減少していた)

4. 2022 年度活動目標

- ①「今日も一日楽しかった」と思える日を増やす
- ② 健康に気をつけながら、毎日の作業に取り組む

5. 目標達成に向けての留意点

- ① 作業で一日を終えてしまうことが多いので、一人ひとり好きなことで関わりを持つ時間をつくる。
- ② 休憩時間に、体操や散歩に行く。作業は手を動かすだけで座っていることが多いため、下半身もしっかり動かす時間をつくる。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見	7 月：キャンプ	10 月：誕生日会	1 月：初詣
5 月：誕生日会	8 月：夏祭り	11 月：ピクニック	2 月：誕生日会
6 月：一日外出	9 月：旅行	12 月：クリスマス会	3 月：一日外出

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	生活介護事業所 クオッカ
担当職員数	9名【栄養士、看護師、運転手、非常勤含】
利用者実績	19名【概数】
令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること。	【令和3年度活動目標】 ・クオッカでの活動を通して、利用者の「笑顔」がたくさんみられることを目標として支援を展開していく。 【令和3年度活動内容】 ・以下の数班に分かれて活動。 ① 木谷加工班⇒大淀町の加工所で内職作業を中心として活動。 ② ケイミュー橋の里班⇒明日香村の橋の畑で、橋の実、蜜柑の栽培関係を中心とした活動。 ③ クオッカAB班⇒半日は明日香方面の公園を中心として散歩やアスレチック等の活動。半日は創作活動、農民連の宛名貼り(内職)、リサイクル、資源回収のビラ配り等の作業。 【令和3年度活動評価・成果】 ・どの班も基本的には外(地域)に出て作業や余暇活動をする方向の方針で取り組んでいった。 ・しかし、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の関係で、買い物や外食、旅行等の取り組みは実施できていない。そのため、社会経験を広げることとは十分には取り組めていない。 ・また、法人内で集団感染が起こり、外出が一切できない時期もあった。 ・そのような状況ではあったが、社会的に感染が落ち着いていた時期には感染予防を徹底しつつ、可能な活動を実施していった。(例えば、外食にいけないため、テイクアウトをしたり、班内で祭りやクリスマス会をしたり等。) ・利用者の活動の幅を広げることを目指して様々な工夫をしていたが、コロナの影響で、活動が大きく制約を受ける1年となった。
令和4年度事業実施にむけた課題	コロナの感染状況をみつつ、活動内容を考えていく。社会的に感染が広がっている時期には、必要に応じてこれまでのように創意工夫をして、活動をしていく必要がある。
令和4年度活動目標	事業名の「クオッカ」は、笑顔のような表情が特徴的なカンガルー科の動物の名前からつけられた。クオッカのように利用者にも「笑顔」がたくさんみられるような活動を行っていく。
令和4年度地域との関わりについて	A) 作業や余暇活動を通して、利用者ができるだけ地域に出ていけるように活動内容を考えていく。 B) 地域からボランティアの受け入れを考えていく。例えば、楽器演奏や体操等を趣味とされていて、それらを利用者と一緒にして下さる方。 ・AB共に、コロナの感染状況をみつつ考えていく。
担当職員数	9名【栄養士、看護師、運転手、非常勤含】
予定利用者数	19名
概ね10万円以上の備品要望	・車両(8人乗り以上)
その他	

(作成者：古波津重雄)

2021 年度「クオッカ A 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：古波津 和田 幸田 辻(真)

利用者数：7 名

活動場所等：ヴィレッジ C 棟 クオッカ 地域の公園等

1. 2021 年度活動目標

- ①仕事関係（資源回収、ピラ配り、ピラ作り等）に取り組む
- ②毎日外出し、散歩等を通して体を動かす。
- ③レクリエーション的な活動に取り組む。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①社会（地域）貢献できるように、利用者個々のできることを仕事に結びつけていった。例えば、ピラ作りでは絵を描くことが好きな利用者には絵を描いてもらったり、丁寧に紙を折ることができる利用者にはピラを折ってもらったり等。利用者個々がなんらかの形で仕事に参加できていた。
- ②歩くこと等、自身で体を動かすことが難しい利用者が多いため、できるだけ体を動かしてもらえるように支援を行った。毎日の午前に公園等に行き、散歩やアスレチック、魚のえさやり等で体を動かしてもらった。取り組み中は利用者の笑顔が多く、楽しく取り組んでもらっていた。
- ③新型コロナウイルスの感染防止のため、外食や買い物等は取り組めていない。しかし、活動場所のヴィレッジやクオッカでは、紙芝居や工作等に取り組み、様々な経験をしてもらえるように工夫した。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、一日外出や外食、買い物等に取り組むことができていない。→社会的にコロナ感染が落ち着いてきたときに、これらの取り組みを進めていく予定。
- ・その日の職員体制により、充実した活動・支援が行えないときがある。→職員が少ないときでも充実した活動ができるように、活動内容の見直しをしていく。

4. 2022 年度活動目標

- ①仕事関係（資源回収、ピラ配り・作り等）に利用者がそれぞれの形で取り組む。
- ②楽しんで体を動かす。（訓練的にはならないようにする）
- ③レクリエーション的な活動に取り組む。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①利用者個々のできることを見直し、それぞれのやり方で仕事に参加できるようにしていく。
- ②マナー化にならないように、散歩に行く場所を毎日変えたり、アスレチックやボール等の遊具も使って体を動かしてもらうようにする。
- ③さらに様々な取り組みを取り入れていく。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見会	7 月：	10 月：	1 月：誕生日会
5 月：	8 月：誕生日会	11 月：誕生日会	2 月：誕生日会
6 月：誕生日会	9 月：	12 月：クリスマス会	3 月：誕生日会

2021 年度「クオッカ B 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：青木 野澤

利用者数：3名

活動場所等：クオッカ等

1. 2021 年度活動目標

- ① 活動にスムーズに参加できるよう環境の整備を行う
- ② 余暇活動の充実

2. 年度末進捗・達成状況

- ①ヴィレッジ使用開始時は、「生活」と「日中活動」の区別がつきづらい様子も見られたが、職員の入れ替わり、活動前後のラジオ体操、作業マットの導入、カーテンを閉める等の設定で、日中活動の時間を理解し、自発的に活動に参加される様子が見られた。クオッカへの移行に伴い、作業スペースと休憩スペースの設定や作業スペースや個室へのカーテンの設置、作業資材を自発的に手に取り作業を開始できるように並べられた棚などの設置を行い、概ねスムーズに活動に参加できてはいるが、同じスペースでクオッカ A 班も活動しており、待機時間は合同で動くことになるため「今日の活動担当（キーパーソン）は誰か」と混乱する場面もあり、工夫が必要。
- ②コロナ禍で、帰省やイベントが規制されている中で、最大限ニーズに応じるよう努めた。メンバーから積極的に希望する余暇活動を伝えてこられるようになった。クオッカに移行後は、大きな作品の制作など、新たな試みも行っている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・日々変わる、活動内容や、職員配置の伝え方
- ・待機時間が増えたことへのアプローチ
- ・生活の場と、日中活動の場と24時間過ごすメンバー同士の、距離感

4. 2022 年度活動目標

- ①活動に集中できる環境づくり
- ②自発的に活動を選択する

5. 目標達成に向けての留意点

- ①習慣的に言葉で通じているように思われる事柄も、視覚的にわかりやすく示す。
- ②自発的な行動は見逃さずに＋のフィードバックを行い、自発的に選択をする発言があった際には、優先的に取り組んでいただく。

6. 年間活動・イベント計画

4 月：お花見	7 月：七夕飾り制作	10 月：誕生日会	1 月：未定
5 月：こいのぼり制作	8 月：川遊び	11 月：みかん狩り	2 月：豆まき
6 月：誕生日会	9 月：未定	12 月：誕生日会・クリスマス会	3 月：ひな祭

2021 年度「クオッカ C 班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：大田 和田 or 中垣（常時二名体制）

利用者数：3 名

活動場所等：クオッカ グリーンタウン(回収ビラ配り)等

1. 2021 年度活動目標

- ①皆で作業することで、全員が作業に意識を向けられるようになる。
- ②生産的な活動（作業）が少しでも出来るように目指す。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①現在、利用者二名が協力してペットボトルのリサイクル作業に取り組まれているが、もう一名は別時間に一人で作業に取り組んでいる。
- ②今まで、資源回収先へのビラ配りだけだったが、リサイクル作業（PTラベル剥がし等）取り入れたことにより、生産的な活動が出来ている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・「集団」としての活動、「個人」としての活動と整理しながら、班としての支援内容、利用者の支援方針の見直し行う。
- ・資源回収先へのビラ配りが出来ていない利用者にも、活動に参加してもらえるように、声掛けを含めた提示の仕方を個別で模索する。

4. 2022 年度活動目標

- ①利用者三名で協力してリサイクル活動をすることで、今以上の成果をあげる。
（個別対応だけではなく、集団での活動機会を作る）
- ②クオッカC班全員で外出をする。
- ③職員も含め、クオッカ内全体が楽しく過ごせるように支援をする。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①押し付けにならないよう、利用者自身が前向きに活動に取り組めるように支援を行う。
- ②段階を踏みながら、提示方法や伝え方を含め、時間をかけて進めて行く。
- ③職員自身が楽しく支援に取り組む。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：花見の会	7 月：	10 月：	1 月：
5 月：	8 月：誕生日会	11 月：	2 月：バレンタインデー
6 月：	9 月：誕生日会	12 月：	3 月：

2021 年度「ケイミュー橘の里班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：羽山 森山

利用者数：5 名

活動場所等：橘の里(高松塚古墳隣接地) 本館2階(はたらく部屋A)

1. 2021 年度活動目標

- ①体調面に気を付け、作業、余暇活動ともに充実してもらう。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①新型コロナウイルス感染予防対策をしっかり行い、大きな病気や怪我なく過ごしてもらうことが出来た。作業面では、草引き、水やりを中心に作業を行う。イレギュラーな作業（肥料撒き、剪定した木を運ぶ作業等）の時は、その作業を得意とするメンバーに行ってもらっている。初めての作業でも「何でも挑戦」と意気込んで作業に取り掛かる姿勢を見て「私も頑張る!」「やりたい!」とメンバー間で互いを意識し合い作業に取り組まれている。

余暇活動では制限がある中、各自の行きたい場所、欲しいものを聞き、マンツーマンで買い物に行く等の支援を行っている。また、外食ができない状態が続いているので利用者の誕生日会や食事会では、各自の好きなものをテイクアウトし、普段とは違う食事を楽しんでもらっている。お花見や川遊び、クリスマス会など季節ごとのイベント等も行っている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・メンバー間でのトラブルがあり、班活動に参加しづらいと感じるメンバーが複数名いた。
- ・新型コロナウイルスの影響や班編成の変更等で、一日外出する機会がなかった。

4. 2022 年度活動目標

- ①メンバー間で「協力」し合い、「互いを思いやる気持ち」を持って仲良く過ごす。
- ②一日外出する日を設け、普段とは違う活動を楽しんでもらう。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①しんどい気持ちをため込み過ぎないように、職員と個別で話をする時間を設ける。
- ②新型コロナウイルス感染予防対策をしっかり行っただうえで活動を楽しんでもらう。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お花見	7 月：お誕生日会	10 月：お誕生日会	1 月：お楽しみ会
5 月：お誕生日会	8 月：夏祭り	11 月：お食事会	2 月：お誕生日会
6 月：お食事会	9 月：お楽しみ会	12 月：クリスマス会	3 月：お楽しみ会

2021 年度「つぼってい〜班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：佐藤真 中村

利用者数：5名

活動場所等：つぼってい〜・近鉄壱阪駅周辺（ウォーキング）

1. 2021 年度活動目標

- ①利用者個々に合った活動内容や環境を整備し、利用者の「笑顔」を引き出す。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①様々な刺激が軽減され、利用者個々の動き出しやすさや過ごしやすさに繋がっていた。
活動内容、場所が急に変更になった利用者もいたが、各々の特性、ストレングスを活かした活動内容、場所といった「今だからできる」支援に挑戦することで、新たな利用者の一面、ニーズが垣間見られた。

※10 月に本館プレハブから壱阪山駅近くの「つぼってい〜」に拠点の移動を行う。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・それぞれの利用者に寄り添い、細やかな支援が出来る活動にする。
- ・立地条件(刺激の減少、個別対応がし易い等)を最大限に利用する。
- ・コロナ対策の状況を、楽しみに変え、新たに見えた利用者ニーズを具現化する。

4. 2022 年度活動目標

- ①余暇活動(調理実習、バーベキュー等)を充実し、利用者の楽しみや進んで取り組める活動内容を増やす。
- ②ウォーキング・体操等で体力作りをする。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①全員が新しいことに複数チャレンジする機会を設ける。
怪我のないように行い、利用者、職員共とことん楽しむ！！
- ②利用者個々の身体の状態(日内変動を含む)・特徴に合わせた運動を行う。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：お誕生日会	7 月：調理実習	10 月：バーベキュー	1 月：お誕生日会
	(たこ焼き)		
5 月：お誕生日会	8 月：お誕生日会	11 月：調理実習	2 月：調理実習
		(お好み焼き)	(チャーハン)
6 月：バーベキュー	9 月：調理実習	12 月：クリスマス会	3 月：
	(焼きそば)		

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	就労継続支援B型事業所 パン工房マツダ
担当職員数	2名(非常勤・兼務を含む)
利用者実績	5名[概数]
① 令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること	【令和3年度活動目標】 ① パンや菓子等、ひとつの商品を皆で協力しながら作って販売する。 ② 地域との関わりを大切に、より多くの方にパン工房を知ってもらい、常連客を増やし、繋がりを広げる。 【令和3年度活動内容】 パンの販売・製造を行う。主な販売先は、おふさ観音(2日/月)、やすらぎの丘の朝食のパン(月2回)、夢創館。夢創館への納品回数、量は前年以上となっている。特に高取町雛めぐり開催期間中は、売り上げが多かった。新型コロナウイルス感染症の影響で、2月以降は注文販売のみ行っていたが、4月19日から店頭販売を再開している。8月から社用車(コルト)を手配している。利用者の送迎を目的とした配車であったが、納品、買い物等の活動にも使用でき、利用者の活動が広がった。作るだけでなく、届けるところまで繋げることができた。利用者からも積極的に外出に参加している。 10月イオンモールアルルで開催された農福連携マルシェに景品としてラスクを納品した。またシフォンケーキとラスクの販売も行った。職員のみでの参加であったが、施設を認知してもらう事が出来たと思う。しかし、シフォンケーキにカビが生えていると購入者より電話連絡で指摘があった。購入者の自宅まで謝罪に行き、今後同じ事が起きないように対策を考え、報告している。主催者である NPO 法人奈良県社会就労事業振興センターにも連絡を入れている。 12月に高取町内のたんぼマルシェに出店した。職員のみで販売を行っている。おふさ観音への納品は、毎月行っている。しかし、新型コロナウイルスの影響で例年よりも受注される数が少ない。医大販売も再開の目途が立っていない。 しかし、近隣の方々への認知度が上がっている。常連のお客が増え、10月には、晩成小学校2年生13名が授業の一環でインタビューに来られ、店内を見学された。また、家族会からもバレンタインデーの商品の依頼があるなど、新しい取り組みも行う事が出来た。 【令和3年度活動評価・成果】 イベントへの出店機会は減少している。しかし、地域の方々、特に個人客は増加しているため地域との関わりは深まっている。認知度が上がってきていると感じる。 祝日の余暇活動は、外出の企画を立てることが難しく、出来ていない。その分、勉強会と称するパン、菓子作りの時間を設けている。それぞれ自由な発想で好きなものを作る楽しい時間になっている。 利用者同士の関りに関しては、作業の役割分担し、協力して作業を行っている。新たな作業にチャレンジをする方もおり、全員が厨房でテーブルを囲んで作業が出来るようになった。
③ 令和4年度事業実施にむけた課題	・毎月コンスタントに売り上げを上げ、工賃に反映させたい。 ・コロナ禍で外出できていない。利用者のニーズに合わせた余暇活動を取り入れていく。作業に関しても、より意欲が持てるように役割の見直しや新しいことへのチャレンジをする。 ・地域の方との繋がりを広げる。
④ 令和4年度活動目標	・衛生面やそれぞれの体調に気を付けながら、感染症対策を徹底してイベントに出店し、多くの人にパン工房を知ってもらう。 ・利用者の個々のニーズに沿った外出及び通常の店内での製造作業を行い、仕事に面白さと楽しさを見つける。 ・協力してパン・菓子を作ることで仲間意識を高める。

令和4年度 地域との関わりについて	・夢創館、おふさ観音への納品を継続する。現在定期的に注文をいただいている個人客への納品も継続する。 ・店舗販売を中心に地域との自然な関わりを広げることを目指す。 ・企業との関わりを深める。
担当職員数	2名
予定利用者数	5名
概ね10万円以上の備 品要望	発酵器（老朽化のため買い替え希望）
支援内容の充実に向 けた取組について	祝日の活動について、利用者の意見を取り入れて行う。お誕生日会、お楽しみ会では、それぞれが目的を理解できるように努め、全員で何かしらの役割を担いながら行う。それぞれの特性を踏まえたうえで、仕事の役割分担を明確にし、仕事に対する意欲を向上する。
その他	

（作成者：長谷部まゆき）

2021 年度「パン工房班」活動報告(案)及び 2022 年度活動計画(案)

担当職員：島廻、谷口

利用者数：5名

活動場所等：パン工房マツダ

1. 2021 年度活動目標

- ① パンや菓子等、ひとつの商品を皆で協力しながら作って販売する。
- ② 地域との関わりを大切にし、より多くの方にパン工房を知ってもらい、常連客を増やし、繋がりを広げる。

2. 年度末進捗・達成状況

- ①それぞれ自分の好きなパンや菓子を作ることが出来た。新型コロナウイルスの影響でイベントがなく、地域との関われる場所が減ってしまったが、販売を通じて納品先や店のお客様との関わりはできている。
- ②お店に来てくれる近隣住民の方が増えた。リピーターが徐々に増えている。

3. 2022 年度に向けた課題

- ・コロナ禍でお客様の人数が少ない日もある。毎月コンスタントに売り上げを上げ、工賃に反映させたい。
- ・コロナ禍で外出できていない。利用者のニーズに合わせた活動を取り入れていく。
- ・地域の方との繋がりを広げる。

4. 2022 年度活動目標

- ①衛生面やそれぞれの体調に気を付けながら、感染症対策を徹底してイベントに出店し、多くの人にパン工房を知ってもらう。
- ②利用者の個々のニーズに沿った外出、通常の店内での製造作業を行い、仕事に面白さ、楽しさを見つける。
- ③利用者同士が協力してパン・菓子を作ることによって仲間意識を高める。

5. 目標達成に向けての留意点

- ①食品の衛生面やそれぞれの体調に気を付けながら、イベントでパンや菓子を売り多くの人にパン工房を知ってもらう。
- ②いろいろな事にチャレンジをしてもらえる環境やきっかけを作る。

6. 年間活動・イベント計画(概要)

4 月：花見	7 月：七夕、誕生日会	10 月：ハロウィン	1 月：お詣り
5 月：	8 月：誕生日会	11 月：	2 月：節分、誕生日会
6 月：	9 月：	12 月：クリスマス会	3 月：ひな祭り

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	共同生活援助(ひなた荘・みどりの家・ビーグル・さくら・れもん)(ホームヴィレッジA・B)
担当職員数	22名(非常勤・兼務を含む)
利用者実績	28名[概数]
①令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること。 ただし、令和3年3月中に予定されているものは記載可能。 ②令和4年度事業実施にむけた課題	【令和3年度活動目標】 ① 利用者の生活に楽しみを持ってもらえるようなイベントや外出を月1回は実施する。 ② ホーム利用者の高齢化・医療的ケアの必要性が高まる中、福祉サービスだけでなく、必要があれば在宅サービスも利用し、本人の生活や人生を福祉と医療の両方から支える体制づくりを行う。 【令和3年度活動内容】 ・このコロナ禍において『本人の生活や人生を福祉と医療の両方から支える』ということが難しく、いろいろと考えさせられた一年だった。 →福祉的視点としては、みんなで楽しい取り組み(季節イベントやお誕生日会など)や個々に楽しい取り組み(園芸、お菓子作り、散歩、読書など)を実施し、“人生を豊かにする”取り組みの充実を図ってきた。 →医療的視点としては、(特にホームヴィレッジ)高齢化もさることながら年齢問わず、ケガ(転倒や骨折)、入院(誤嚥性肺炎など)、新たな疾患(心不全など)の発覚など多かったように思う。 →利用者ニーズに対応すべく、介護初任者研修や喀痰吸引研修等に参加。 ・高齢化の問題は利用者だけでなく職員にも。 →ビーグル職員が体調不良で1か月休職。 →ビーグルについては3月より職員4名体制で夜勤、日勤を分担し、各々の負担を軽減しながら、“チーム”として連携支援をおこなう。 【令和3年度活動評価・成果】 上記の支援を各GHとも目標としておこなった。 ・利用者の“楽しみ”の充実という点では、コロナ禍で様々な制限のある中で、各GHの工夫と努力が光った。 ・食支援においてSTをもっと積極的に活用すればよかったと感じている。定期的にみてもらうことでもっと早い段階で食事提供の制限を緩和できていたのではないかと感じている。 ・ビーグル職員については無事復職。休職中は、GH間での連携をはじめ、寮職員、日中職員、事務職員など各部署に協力いただきながら、ビーグル利用者の生活を支えるという事態となった。これを機に、職員の高齢化についても配慮の必要性を強く感じた。大変だったが、“チーム”として支援する形を強く実感することができた。 【令和4年度事業実施にむけた課題】 ・グループホーム利用者の高齢化にともない、医療的ケアの必要性が高まってきた。そんな利用者の状況に応じ、職員に求められるスキルや技術習得に向けた取り組みが不十分である。医療従事者と日ごろから連携していくことは大事で、緊急時(利用者も職員も)の対応も体制も確立しておく必要がある。 ・利用者の障害状況を正しく理解する必要がある。その人に対して、誰もができる支援(=根拠のある支援)を整えていく必要性を感じる。

	・利用者にとってよりよい住環境について考えていく時期に来ていると感じている。 →（建物の立地や利用者の高齢化により）ビーグルは移転も視野に入れ物件探しを進めている。 →（障害状況より）強度行動障害への理解と安住できる住環境の模索が必要である。 ・障害程度が重度な利用者の重度・高齢化への対応に目が行きがちだが、中・軽度の利用者の日常にもしっかりと目を向け、健康面や精神面に寄り添い丁寧に対応していく必要がある。
① 令和4年度活動目標	・ GH 内連携だけでなく、GH 間連携を普段から積極的におこなっていく。 ・ 利用者の生活や人生を福祉と医療の両方から支える体制をつくる →その人の人生を豊かにするために“楽しみ”をどう充実させていくか ① 外出・外食（コロナ終息後） ② ホームイベント（季節イベントなど） ③ 個々の趣味（園芸、お菓子作り、散歩、読書など） →その人の人生を支えるべく“健康”をどう維持・向上させていくか ① 高齢化への（身体的・精神的）配慮 ② 基礎疾患などへの配慮 ③ 日々の体力づくり、健康づくり 上記の視点をもち、個別支援を計画し、実践していく。
令和4年度地域との関わりについて	・ 地域で生活基盤を持っている GH として、自治会の参加や地域イベントへの参加を引き続きおこなっていく。 ・ 地域の方々に対して職員が率先して、明るく元気に挨拶する。 ・ GH 生活圏内の公共機関（図書室など）や店舗（スーパーやコンビニ）などは、“利用者の生活を支える大切な地域資源”として捉え、利用者とともに積極的に利用していく。
担当職員数	23 名
予定利用者数	28 名
概ね 10 万円以上の備品要望	・ ビーグル→夜勤者用の仮眠ベッド
支援内容の充実に向けた取組について	・ いま一度、利用者個々の障害状況を正しく理解し、根拠のある支援内容を計画していく。 ・ 職員に求められるスキルや技術、判断力や観察眼を向上するための研修をおこなう、また外部研修を活用する。 ・ 個別支援会議の開催頻度をあげていく。 ・ GH 内ならびに GH 間において、職員同士が“利用者支援”について確認・共有する機会を設ける（各 GH 会議ならびに、GH 全体会議の在り方について見直し）

（作成者：當山綾子）

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	指定特定相談支援事業/指定障害児相談支援事業/指定一般相談支援 りあん 奈良県総合圏域相談支援事業 圏域マネージャー
担当職員数	4名【奈良1名・高取2名・中和圏域マネージャー1名】
利用者実績	(令和3年度)登録者数:高取178名 / 奈良85名 高取エリア:計画作成(135名) / モニタリング(220名) 奈良エリア:計画作成(54名) / モニタリング(163名) 終結:7名(理由:就職・転出・死亡・事業所変更)
①令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること。 ただし、令和3年3月中に予定されているものは記載可能。 ②令和4年度事業実施にむけた課題	①「よろか」を利用して新しい事業を展開する。(高取エリア) ・地域の人に積極的にきていただき、地域の相談に乗れるような場所にしていく。 ⇒「よろか」への来所はほとんどないが、近所の人々が「よろか」で休憩して、話しをして帰る人等がいていた。もっと来年度は憩いの場になれるようにしていきたい。 ・障害のある方が悩んでいることに対する相談が気軽にできるようなイベントの開催(例、一人暮らしをしたい 恋愛したい等) ⇒「よろか」を利用してのイベントは開催出来ていない新型コロナの影響もあり、なかなか人が集まるイベントを開催することが難しい。来年度は是非とも開催できるようにしていきたい。 ・「よろか」のパンフレット等を作成して、「よろか」をアピールする。 ⇒「よろか」のパンフレットを考えていたが、イベント等が出来ない中でのパンフレットの効果が半減するので、作成しなかった。イベントの告知等をするときに「よろか」をアピールしていこうと思う。 ②相談支援の質の向上(高取・奈良エリア) ・積極的に研修等に参加して、相談支援の質の向上を目指す。 ⇒新型コロナの影響もあり、開催が2回しかなかった。 - 主に事例検討を行ない、ケースの共有を行う。 ・自立支援協議会等を通じて、地域全体の相談支援の質が向上できるような他事業所との連携を図る。 ⇒地域全体への目線は向けられていない。 ・親亡き後を見据えた支援の在り方を検討していく。 ⇒未達成。今年こそ！優先順位をつけ必要な方から完成させていく。 ・家族支援を踏まえた支援の在り方を考えていく。 ⇒家族・現場をふまえてのケース会議等がやりにくい状況である。家族の話はできる限り聞くようにはしている。家族からのSOS等にも電話等で対応はできている。 ・家族自身が機能不全状態などキーパーソン不在の方へのアプローチ ⇒家族との信頼関係を作り、なにかあれば連絡をもらえるようになる。法人外他機関・他職種を巻き込みながらチーム作りを行ってきた。 ③事業所内での人材育成(高取・奈良エリア) ・今後、地域支援をしていくうえで、相談支援専門員が核となってくるが、地域全体を見渡しても相談支援専門員の質は低下している。当法人は地域の核となる法人と考えるので、相談支援専門員の人材育成は急務である。 ・新たな相談支援専門員の人材を相談支援部署に採用して、相談支援が出来る人材を育てる。 ⇒新たな人材の登用はできていない。来年度に向けて、法人内での相談員の育成は急務である。 ④健康面を意識したアプローチ(奈良エリア) ⇒やっとスタートラインに立つ。家族、支援者との共通認識をつくるところが難しい。あきらめず危機感を持って取り組んでいきたい。
① 令和4年度活動目標	①親亡き後を見据えたアセスメント作成(前年度から継続) ・高齢化対策が必要となる利用者が増えてきている。予めアセスメント作成して、今後を見据えた計画を作成していく。 ②多職種連携の強化 ・様々事業所や機関とのつながりを強化して、地域で暮らしている障害のある人を支えるチームを強化する。 ・法人内での連携も強化して、本人がどのような暮らしを目指しているのかを共有していく。 ③相談支援専門員としての質の向上

	・様々な研修会に参加して、相談支援専門員として知識を得る。 ・協議会での事例検討だけではなく、法人内でも事例検討やスーパービジョン等を行う。 ④「よろか」を利用しての地域との連携を進めて行く。 ・「よろか」を利用してのイベントの開催を実施。
令和4年度 地域との関わりについて	法人理念「地域で 地域と共に歩み 生きる」のもと、利用者や事業がどう地域と結びついているのか記入 ・「よろか」を拠点とし、地域の身近な相談窓口として役割が果たせるよう取り組んでいく。 ・高取町社会福祉協議会など、地域の関係機関と連携しながら、地域課題に対して検討していく。 ・自立支援協議会等に参加して、横のつながりを広く持って行く。 ・他法人の事業所への研修会等にも参加して、つながりを深めていく。
担当職員数	4名
予定利用者数	高取エリア：計画作成(130名) / モニタリング(230名) 奈良エリア：計画作成(47名) / モニタリング(199名)
概ね10万円以上の備品要望	
支援内容の充実に向けた取組について	・専門性の向上 (研修・勉強会・自立支援協議会の参加) ・地域の様々な会議に積極的に参加。

(作成者：木村淳志・北好美・大川順子・高岡直子)

令和 3 年度活動評価・報告(案)と令和 4 年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	障害者就業・生活支援センター (なら中和障害者就業・生活支援センター ブリッジ)
担当職員数	6 名
利用者実績	登録者数 740 名(令和 4 年 3 月 1 日現在) (身体: 48 名 知的: 360 名 精神: 200 名 発達その他: 125 名)
①令和 3 年度活動目標とその評価 ※令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 2 月末までで記載すること。ただし、令和 4 年 3 月中に予定されているものは記載可能。	【令和 3 年活動目標】 (1)職場実習を実施し、雇用促進につながる仕組み作り。(年間 55 件目標) (2)就職を年間 45 件達成するための支援の在り方 (3)職場定着支援の在り方について (4)自立支援協議会を軸とした、就労支援ネットワークの構築 (「就労支援の可視化」を目指す) (5)地域企業での雇用促進の仕組み作り ○令和 3 年度の数値目標(令和 4 年 2 月末現在) ・職場実習あっせん件数 目標値 55 件 → 31 件(未計上含 36 件) ・就職件数 目標値 45 件 → 34 件(未計上含 40 件) (知的 23 件、精神 10 件、発達 6 件、高次脳 1 件、未診断 1 件) ・職場定着率(令和 2 年度就職者の 1 年定着率) 78.0% (知的 70.3%、精神 40.0%、発達 74.5%) ・職場定着支援件数 800 件 → 712 件(企業支援) 【令和 3 年度活動評価・成果】 (1) <u>職場実習を実施し、雇用促進につながる仕組み作り。(年間 55 件目標)</u> 【評価点】 ・雇用前提実習は、就労の際には概ね活用されたため件数は伸びた。また、活用したことで概ね雇用につながった。障害のある方、企業側双方にとって理解し安心に繋がっているため、就職の際には概ね活用されている。 ・就労支援事業所が増えてきたこともあり、当センターを介さずに実施が進んでいる。 【課題点】 ・55 件達成できなかった。今年度もコロナ禍ということもあり、職場実習が思うように進まなかった。特に体験的な職場実習に関しては、実習者の状況(体験実習を希望される方の体調等の状態、体験・訓練を希望するよりも早く収入を得たいというニーズ、コロナ禍での不安等)・企業側の受け入れ状況(コロナ禍による受け入れ見合わせ等)などが上手く噛み合わずに進まない状況が続いた。 ・行政実習は、コロナ禍ということもあり例年よりも実施件数が伸びなかった。今後は、年間通じて各課で受け入れ可能な時期を設定していただき、実習が行える仕組みを検討していく。 (2) <u>就職を年間 45 件達成するための支援の在り方</u> 【評価点】 ・コロナ禍の中でも、一定数の雇用に携わることができた。(現段階で 34 件) ・事前に職場実習を活用したことで、互いに理解が進み雇用に繋がった。 【課題点】 ・現時点で 34 件。(令和 4 年 2 月現在) 目標数値の達成は難しい。要因としては、当センターの支援を受けなくても就労される方、求人数が少ないため、A 型事業所を利用される方が増加傾向にあるためと捉えている。 ・就労移行支援事業所や就労継続支援 A・B 型事業所を利用されている方を含め、現段階で就労準備性が整っていない方が多いため、進まなかった。 (3) <u>職場定着支援の在り方について</u> 【評価点】 ・ブリッジ内の会議でも、個々のケースにおいての職場定着支援の方針を共有することで、多面的な支援を行うことができている ・障害のある方の特性や企業の姿勢に応じて、書面で支援方針やそれぞれ

の役割を確認することで、互いの理解が進めることができた。
・コロナ禍もあり、良い流れでナチュラルサポートに移行することができた。本人の強みと企業が求める役割が合致したケースは、早い段階で終結することができた。（終結であっても、本人・企業側からの要望があれば対応する。）

【課題点】

・コロナ禍ということもあり、直接企業へ訪問することが難しい面もあり、短期間で離職となるケースも少なくなかった。
・支援者としては、ミスマッチであることを伝えているものの、個々人の事情により雇用を進めなければならない面もあり、結果的に長期的な職場定着につながらないケースがあった。

(4) 当事者会の在り方について検証（ピアサポート支援の充実）

【評価点】

・クロワッサン（知的障害者当事者会）のニーズ把握のため、少人数でのオンラインサロンを単発的に行った。
・発達障害のある方の当事者会（with/はたらっく）は、オンラインを駆使して、これまで通り開催を続けたことで、安心できる場を補償できた。
・橿原市・明日香村・高取町自立支援協議会当事者部会に参画し、当事者が抱える課題や想いを出せる場を設けた。

【課題】

・コロナ禍で見通しが見えない状況ではあったが、現状に合わせた形での取り組みに向けての工夫・実践が足りなかった。
・改めてニーズ調査を行い、地域の実情に合わせた当事者会のあり方を検討していく。

(5) 自立支援協議会を軸とした、就労支援ネットワークの構築（「就労支援の可視化」を目指す）

【評価点】

・リモートを駆使しながら、地域の支援機関と意見交換・情報共有する場を持つことができた。
・3市1町自立支援協議会では、支援機関の役割や課題について改めて再確認のため、研修形式で開催した。
・大和八木周辺に新設の事業所が増えてきたこともあり、意見交換会を今年度から創設し、地域課題を把握する取り組みを行った。（いずれも2カ月に1回実施。主にリモートで開催）

【課題点】

・現状としては、地域課題解決に向けての議論には至っていない。
・支援機関との連携は必須であるが、共通認識・共通言語が持てていないため、本質的な連携とはなっていない。
・マンパワーによる連携で成り立っているため、他機関での人事異動など人が入れ替わることで、連携が停滞する側面がある。

(6) 地域企業での雇用促進の仕組み作り

【評価点】

・橿原市では商工会の広報誌に掲載していただき、障害者雇用についての周知を図った。
・広陵町・大和高田市と提携している、「KoGoBiz ビジネスサポートセンター」と月1回の情報交換や企業側の観点からの助言などをいただき連携を図っている。
・ハローワークと連携し、雇用率未達成企業に対して障害者雇用についての研修・周知を行う場を持った。（精神・発達障害仕事サポーター養成講座）

【課題点】

・いずれも表面的な議論しか行えていない。また、関係機関とも連動した形でアプローチが出来ていない。来年度は、各市町村単位の商工会や振興課などと共に議論の場を持ち、多様な雇用を生み出す場を創出していきたい。

②令和4年度事業実施にむけた課題	○定着支援あり方について ・コロナ禍の影響で、計画沿った支援が実施できないことで、離職につながるケースがあった。 ・生活状況を踏まえ、早急に働かなければならないケースもあるため、離職の可能性が高い中でも定着支援を進めなければならないケースもある。 ○就職を後押しできる仕組みが整備されていない。 ・ブリッジの登録者（福祉事業所利用者も含めて）など、就労準備性が備わっていない、事業所として新規利用者が来ないため就職を後押しできない、事業所としての事業運営が優先されるため、就職活動が上手く進まない。 ○生活支援の複雑化や支援度の高まり ・就労能力があるものの、生活状況（家庭環境・生活能力など）や自己理解（障害受容・アンダーコントロール・ストレスコーピングなど）が上手くいかず、就労生活が安定しないケースがあり、1人の方にかかる支援頻度が高まってきている。
③ 令和4年度活動目標	(1)職場実習を実施し、雇用促進につながる仕組み作り。(年間55件目標) ・就労支援事業所に体験実習の周知を行い、計画的に実習を進めていく。 ・現在関わりある企業を通じて、職場実習の受け皿として確保する。 ・職場体験をしたことで、どのような効果があったのか周知して行く。 (2)障害者雇用促進に向けた支援の在り方(年間45件目標) ・ハローワークの情報に限らず、各市町村商工会などを通じての雇用先の開拓を進める。 (3)職場定着支援の在り方について ・企業訪問の目的をセンター内で検証し、効果を評価していく。(企業：障害特性の習熟度、障害雇用に対する認識、受け入れにあたっての環境整備など、登録者：職場の雰囲気、相談相手の有無、役割の有無などを) (4)自立支援協議会を軸とした、就労支援ネットワークの構築 ・福祉事業所体験会、企業見学会などを通して、地域の実情に合わせた支援の仕組みを構築していく。 (5)地域企業での雇用促進の仕組み作り ・中和圏域企業との繋がりを深めるため、各市町村の振興課、商工会を軸に障害者雇用のマッチングに繋がる仕組み作りを目指す。
令和4年度 地域との関わりについて	○就労支援プロセスの可視化 ・就労支援部会や地域の就労支援事業所と福祉事業所体験会や勉強会を開催し、就労支援での共通認識を持てるように働きかけ、福祉的就労から一般就労までのプロセスについて可視化できるよう取り組んでいく。年間4～5回開催（一般就労を目指す。） ○企業・福祉事業所の相互理解 ・各市町村振興課、商工会を通じて地域企業との関係を深め、障がいのある方や福祉事業所が就労に対して身近に感じられるような仕組み作りを進めていく。福祉事業所体験会にも企業の方をお招きして、企業と福祉事業所との接点をもつ。 ○インフォーマルな資源の開発 ・今井町での繋がりを深める。(地域にある店舗での雇用【短時間雇用も】、居場所の紹介【余暇の充実】、地域活動の参加【地域でのイベント等のボランティアなど】)当法人の無農薬野菜やパンなどの商品を通じて、関係構築を図る。 ・今井小学校など、近隣の小・中学校でのゲストティーチャーとして、福祉・障がいのある方への啓発活動。→教育機関での障害者雇用（職場体験も含めて）促進されるように支援する。
担当職員数	6名（労働局5名県1名）
予定利用者数	750名(概数)
概ね10万円以上の備品	

要望	
支援内容の充実に向けた 取組について	・各職員のスキルアップのための機会を増やす。 （研修への参加、研修講師、意見交換会参加など、積極的に進めていく。） ・個別面談を毎月実施し、業務状況を把握しながら、相談員それぞれに合った良さを発揮できる役割を見出していく。 ・会議で、できるだけ業務の見える化を図り、情報共有に努める。

（作成者：青木孝至）

令和3年度各圏域マネージャー活動報告概要【中和圏域】

圏域マネージャー：木村 淳志

○令和3年度達成目標と、それに対する進捗状況

達成目標	地域生活支援拠点等の整備に向けた圏域内における整備と具体化 研修等を活用した相談支援事業所間の連携充実と相談支援専門員の更なるスキルアップによる サービス等利用計画の質の向上 地域の相談支援体制の構築
進捗状況	地域生活支援拠点等の整備に関しては、各市町村で、具体的に話しは進んできている。檀原・高取・明日香では、一人暮らしの体験を柱に進んでいる。現在要綱の作成をしており、来年度からは実施はできる予定である。3市1町では、緊急時の対応と体験を同時に進めている。来年度からは要綱を作成して、実施する予定。南和地域に関しては、緊急時の対応を担当制にして、実施をしている。 相談支援の連携充実に関しては、協議会を中心に進めている。各市町村で、特定相談支援事業を加えての連絡会を設置する。横のつながりを作ることで、相談員同士の連携とスキルアップを目指している。

○相談支援ネットワークづくりについて

取組課題	①相談支援事業所の更なるスキルアップ(困難事例に対する協働と新たな社会資源開発に向けた協議会との連携) ②階層的な相談支援体制の構築
目標・共通認識	①②相談支援部会及び連絡会等による相談支援ネットワークの強化(令和4年3月) →各協議会における事例検討会の開催(月1回～2回)、研修を企画して、スキルアップ 機会の提供等 →委託相談支援の役割を明確にして、特定・一般相談事業所との連携を密にする。
取組内容と成果	各協議会における事例検討会は自立支援協議会を活用して、相談支援部会内で実施する。新型コロナウイルスの影響もあり、各協議会共に3回程度しか開催できていない。事例検討は実施することで、日頃から相談員の持っている悩み等を一事業所だけで、解決するのではなく、地域の課題として参加者で共有できた。 事業所の連携に関しては、委託の相談支援事業所が集まる機会はあったが、特定相談支援事業所は集まる機会はあまりなかった。そのために各市町村での連絡会を設置することを提案する。設置ができた市町村もあるが、まだ設置できていない市町村もある。
令和4年度に向けた課題	地域の相談支援体制が確立できていない。各市町村で抱えている相談支援の課題を解決できるシステムを必要である。又、コロナ禍でも対応できるようにZOOM等を利用した会議の方法も検討していく。

○地域生活支援の相談拠点の確立に向けた取組について

取組課題	地域生活支援拠点等の整備に向けた、具体的な実施。
目標・共通認識	社会資源の把握と確認、機能についての共通認識をもつ(令和4年3月) →プロジェクトチームを中心に市町村と連携して、具体的に地域生活支援拠点を実施していく。
取組内容と成果	檀原市・高取町・明日香村に関しては、自立支援協議会の運営委員会を利用して、地域生活支援拠点の整備について話し合いを行った。その中で、一人暮らしの体験の機会の整備を進める事で要綱等の作成し、事業所の公募を行うことまで、議論が進んでいる。 3市1町の協議会では緊急時の対応の整備を優先的に考え、入所施設等を訪問して、現状分析と今後どのように考えているのかの話し合いを行う。
令和4年度に向けた課題	整備できていない市町村に関しては整備をしていくように助言が必要である。 整備完了した市町村に関しては、その評価体制を構築する必要がある。

○人材育成について

取組課題	県協議会と地域の協議会が連携して人材育成体制を整えていく。 ①人材育成ビジョンを作成して、将来を見据えての人材育成を行っていく。 ②研修機会の提供。 ③各事業所の人材育成に関するノウハウの不足
目標・共通認識	①県協議の人材育成部会での人材育成ビジョンの作成。 ②市町村社会福祉協議会等と連携による人材確保(令和4年3月) 障害福祉以外の福祉事業所との連携して、会議・研修会の開催(令和4年3月) 研修会の開催(年3回)(令和4年3月) ③相談支援部会、評価部会等の開催によるサービス等利用計画の質の向上(令和4年3月)
取組内容と成果	①人材育成ビジョンに関しては県協議会を中心となって部会を開催して、議論を進めている。まだ完成はしていないが、市町村と県と事業所が連携して、人材育成をしているシステムの大枠を決めることができています。 ②研修会に関してはコロナ禍でもあり、あまり開催することができていない。しかし、自立支援協議会主催の研修会はZOOM等を活用して、開催することに携わることができている。 ③相談支援部会は3市1町協議会の部会で開催している。その部会が主導して、相談員の質の向上の為の研修会を行う。
令和3年度に向けた課題	①人材育成ビジョンの作成は急務である。そのビジョンを基に研修会等も進めていく必要がある。 ②地域での人材確保のシステムは作ることができていない。協議会等も活用して、新たな人材の発掘が必要である。 ③相談支援部会は各市町村で実施することができている。その部会の中で相談員の質の向上に関して、もっと深く考える必要がある。

令和4年度の達成目標		地域生活支援拠点等の整備ができていない市町村は整備を進める。整備ができていない市町村に対してはそれの評価を行う。 地域の自立支援協会等を活用した相談支援事業所間の連携充実と相談支援体制の構築											
区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援ネットワークづくり（地域生活支援拠点整備を含む）	1. 現状 （相談支援ネットワーク及び地域生活支援）	①自立支援協議会に設置された相談支援部会が設置されたが、地域の相談支援に関する課題を把握できていない。 ②委託相談支援事業所と特定の相談支援事業所との連携を深める為に、市町村毎に相談支援連絡会を設置が徐々に進んできている。 ③地域生活支援拠点等整備事業は整備が進んでいる地域とまだ検討中の地域がある。											
	2. 取組課題	①相談支援事業所の更なるスキルアップ(困難事例に対する協働と新たな社会資源開発に向けた協議会との連携) ②相談支援事業所における連携できるシステムの構築。 ③地域生活支援拠点等の整備に向けた、具体的な実施。と評価システムの構築。											
	3. 目標・取組内容	①②相談支援事業所における連携の強化と相談支援専門員としてのスキルアップ(令和5年4月) →地域におけるスパービジョンをできる場を定期的に実施する。 →各市町村に、特定相談支援と委託相談支援事業所が連携がとれるように連絡会を設置。 ③地域生活支援拠点等整備事業を実施していく。(令和5年3月) →まだ整備できていない市町村に関しては整備できるように会議等に出席して、整備を促していく。 →整備が進んでいる市町村では、それを評価できるシステムを構築していく。											
	4. ツール ①会議 ②講演会 ③圏域情報(HP) ④その他	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加	①②各協議会部会 県協議会部会等 困難ケースにへの 会議参加 研修会の情報提供 各部会と協力して 研修会の開催 ③整備事業プロ ジェクトへの参加
人材育成	5. 現状	福祉事業所は増えてはきているが、事業所内でOJTが出来る人が少なく、支援者としての資質を教える人がいない状態になって来ている。福祉を勉強したいと思っている支援者は積極的に研修会等にも参加してきているが、興味のない人は研修会を開催しても参加していない現状がある。											
	6. 取組課題	県協議会と地域の協議会が連携して人材育成体制を整えていく。 ①人材育成ビジョンを作成して、将来を見据えての人材育成を行っていく。 ②研修機会の提供。 ③地域でのOJTが出来る環境を作る。											
	7. 目標・取組内容	①県協議の人材育成部会での人材育成ビジョンの作成。(令和5年3月) ②地域の自立支援協議会と連携して、研修会を開催する。(令和5年3月) 障害福祉以外の福祉事業所との連携して、会議・研修会の開催(令和5年3月) 研修会の開催(年3回)(令和5年3月) 県主催の法定研修の企画に参加する。(令和5年3月) ③自立支援協議会を活用して、地域でOJTができるシステムを作る。(令和5年3月)											
	8. ツール ①研修会の開催 ②人材育成部会 ③圏域情報(HP) ④その他	①人材育成部会	①人材育成部会 ②県調査委員研修	①人材育成部会 ②県審査委員研修 各部会での研修会 を企画	①人材育成部会 ②各部会での研修 会を企画	①人材育成部会 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画 ②強度行動障害研 修 相談支援初任者研 修 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画	①人材育成部会 ②サビ管更新研修 相談支援初任者 研修	①人材育成部会 ②サビ管基礎研修 サビ管実践研修 相談支援初任者 研修 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画	①人材育成部会 ②サビ管基礎研修 相談支援初任者 研修 虐待防止研修	①人材育成部会 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画 ②相談支援主任研 修 相談支援現任者研 修	①人材育成部会 ②相談支援主任研 修 相談支援現任者研 修 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画	①人材育成部会 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画 ②相談支援現任者 研修 ②相談支援現任者 サビ管実践研修	①人材育成部会 ②③自立支援協議 会での研修会を企 画

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	奈良エリア
担当職員数	常 勤：施設長 1 / 相談員 6 / 支援員 17 / 総務 1 非常勤：看護師 1 / 調理員 2 / 支援員 18
利用者実績	
①令和3年度活動目標とその評価	【令和3年度活動目標】 ①継続して各部署が新型コロナウイルス感染予防に努め、感染者が出たときの対応や広げないための備えを行う。 ②令和3年度改定に伴う給付費の変動を見越し、各事業の体制を整える。引き続き収支バランスの改善に向け、家賃交渉等経費の削減を行う。活動内容の充実と並行して特別支援学校や相談支援事業所に働きかけ、実習の受け入れを行うことで、新規利用者5名の獲得を目指す。 ③グループホームの業務改善計画を実現し、安定した運営基盤を整え、職員の補充と共に土日開所を増やす。 ④日々のかかわりの中で目の前の活動や仕事だけでなく、望む暮らしがイメージできるような情報提供を行い、相談支援と連携して生活支援を行う。 ⑤医療との連携について、他法人との情報交換や取り組み事例をもとに法人としての在り方を定め、実践する。 【令和3年度活動内容】 ・各事業報告のとおり 【令和3年度活動評価・成果】 ①助成金を活用し感染防止のための備品、消耗品を備えた。職域接種等により利用者、職員のワクチン接種の推奨、情報伝達、接種支援を行った。内外感染者の増減により店舗の営業休止、外出、事業所間の往来、訪問の自粛、感染予防の協力依頼を行った。はなばたけ陽性利用者の対応については、コンパスの業務調整により神殿2階居室での療養が行えたことで、感染拡大を防止することができた。 ②令和3年度報酬改定により、特に就労継続支援A型チェリッシュの給付費については、施設外就労加算が廃止されたことへの影響が大きかった。利用者増を目指したが、結果1名減、また二次障害として精神疾患を重複し、出勤日数が減少するケースもあり減収となっている。家賃については神殿の建物が家主さんとの交渉により令和3年7月から525,000円→440,000円/月となった。古着店舗については令和4年7月が契約更新時期となるため、移転による固定費削減を目指し新たな場所を検討中である。野の花舎、チェリッシュで5名の新規利用者の獲得を目指したが、広報、求人活動に力が及ばず獲得には至らなかった。 ③はなばたけへの常勤職員の加入で運営基盤が整いつつあるが、土日完全開所までには至らなかった。施設長による「奈良エリアイキイキカイゼン」計画に基づき、石井職員がリーダーとなり業務の標準化を進行中である。業務の洗い出しの中で小口現金の管理に課題も見られ、新規職員や他部署からの応援がいつ入っても標準的な業務や支援が行えるよう、現場職員とともに改善を進めている。 ④利用者・家族の加齢に伴い生活支援の比重が高くなってきているが、法人内に相談支援事業所がある強みを生かし、常に情報共有と役割分担を行いながら様々なケースに対応することができた。特に独居や両親不在で他事業所のグループホームで生活する利用者に対しては、りあんが様々な資源をつなぐ柱として存在することで生活の維持が図れている。 ⑤奈良市グループホーム協議会、施設長会議に出席し、他法人の取り組みや地域の課題を共有する機会を持った。医療との連携については個別のケースで対応する中で、情報共有の難しさや通院同行についての課題も見られているが、医療的な支援の法人としての在り方を定めるまでには至っていない。

②令和４年度事業実施に むけた課題	・新型コロナウイルス感染症への対策。BCP(事業継続計画)の未作成。 ・収支バランス改善の継続。固定費削減。定員に対する利用者の不足。 ・非常勤・常勤職員の業務の標準化。
令和４年度活動目標	①新型コロナウイルス感染防止に努めBCPの作成準備を行い、感染状況に応じて事業所間で連携できる体制を整える。 ②チェリッシュの今後の事業展開を視野に入れた固定費の削減や助成金の申請を行う。 ③利用者増に向け広報、求人活動を行う。 ④非常勤・常勤職員の業務の標準化(チェリッシュは利用者も含む)を行い、誰もが働きやすい職場を目指す。
令和４年度 地域との関わりについて	・法人HPやチラシでの広報活動を行う ・各事業所が出席する会議などを通して地域の課題を共有し、事業内容に反映させていく。 ・地域の防災訓練、清掃活動に参加し交流を図る。
担当職員数	常 勤：施設長 1 / 相談員 6 / 支援員 18 / 総務 1 非常勤：看護師 1 / 調理員 2 / 支援員 17
予定利用者数	
概ね 10 万円以上の備品 要望	各事業計画の通り
支援内容の充実に向けた 取組について	

(作成者：松原裕子)

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	就労継続支援A型 チェリッシュ
担当職員数	常勤10名／非常勤11名
利用者実績	37名(令和2年度:38名)
①令和3年度活動目標とその評価	【令和3年度活動内容】数字はR2実績→R3実績(3月時点概算) 古着リサイクル事業 ・古着買取 買取先 奈良市リサイクル推進課: 250,800円→233,640円 ・一次選別業務 布としての業者売却分と店舗での販売分の古着に仕分け ・二次選別業務 店舗販売分を仕分け、価格設定、値付け ・店舗販売(リサ'S マート) 売上 237,313円→314,438円/営業月平均 営業 月～金(祝日含む) 10:00～15:30 職員1名、利用者2名 2月新型コロナウイルス感染防止のため休業 瓶リサイクル事業(奈良県エコロジー協働組合内) 収入 26,045円→22,782円/月 毎週金曜日 13:00～16:00 職員1名利用者2～3名で出向きビンの選別 補助的作業(内職) ・日邦樹脂工業(株) タッパー組立、梱包 収入 54,694円→58,090円/月 ・(株)タカゾノリープス 紙管分別作業収入 72,458円→73,333円/月 施設外就労 奈良市優先調達による業務委託→収入 29,155,076円/年 ・資源回収業務 環境清美工場に持ち込まれた古紙・古布の選別、結束作業 ・空き缶処理業務 選別、圧縮した成果物の結束 ・コンテナ洗浄業務 紙パック等回収時使用のコンテナの洗浄 ・ペットボトル処理業務 選別、圧縮した成果物の結束 ・公衆便所・公園等清掃業務 奈良市内の公衆便所、公園清掃(365日) ・美化促進清掃業務 市指定美化促進重点地域の清掃業務5日/週 ・廃棄物収集運搬業務 清掃箇所から排出される産業廃棄物の運搬 法相宗大本山薬師寺との業務委託→収入 846,720円/年 駐車場側トイレ清掃 365日/年 個人面談、ケース会議、関係者会議、担当者会議、訪問、通院同行(随時) 職員会議 神殿・左京・大安寺 各1回/月 チェリッシュ全体 1回/月 訪問歯科 クレセントデンタルクリニックによる治療(平均5名/月1回) 食事会 宅配やテイクアウトで開催(神殿) 家族会 9/22・23 奈良市総合福祉センターで2日間同じ内容で開催 活動中の事故 利用者3件(転倒1、負傷2) 職員1件(負傷1) 健康管理 希望者へのワクチン接種同行・健康診断・看護師によるバイタルチェック 【令和3年度活動評価・成果】 活動目標 ①ニーズに基づきA型以外の新たな事業種別を決定し、令和4年度開始に向けての準備を行う。 ②新型コロナウイルス対策に限らず、利用者・職員が衛生的に安心、安全に業務に取り組めるよう、作業環境を整える。 ③就労支援における実践・評価の基準を示し、実習の受け入れ、求人活動を行うことで新規利用者3名増を目指す。 ④アセスメントに基づく個別支援計画の作成、計画に基づく就労・生活支援を確実に実行できるよう改めて援助技術の習得を行う。 ⑤ コロナ禍は継続する前提で、収益減の事業の新しい展開を行う。 評価 ① ③障害特性への対応など、より福祉的な支援が必要、週5終日の働き方が合わない方のニーズが高いことが明確になったが、サービス種別や場所の確定は来年度に持ち越しとなった。また利用者の健康状態の変化に伴い、チェリッシュ内でもより働き方に柔軟性を持つ神殿への異動が多く、施設外就労の人員不足は厳しい状況が続いている。外部からの問い合わせも屋外での肉体労働が合わない方のケースが多く、新規利用者の獲得には至らなかった。 ② 感染リスクの高い業務の中で、健康管理や感染防止を行うことは利用者、

	職員ともに大きな負担となったが、それぞれの日々の努力の積み重ねにより感染者が出ても広がることなく事業が継続できている。 左京のエアコン修理、防寒設備の整備が遅れ、負担をかけている。奈良市より大安寺の作業場のエアコンの交換をしていただく。左京については年度内に交換していただく予定。 ④サービス管理責任者の研修に2名が受講。援助技術に関しては職員会議内で資料配布、説明を行った。外部研修には10名中7名が参加した。 ⑤古着販売について、大きな事業展開はできなかったが、セールの時期や商品の選別の工夫により売り上げ増とすることができた。 ⑥ 神 殿：店舗の看板を野の花舎の協力により作成中。余暇支援として近隣の飲食店の宅配等、社会資源として積極的に活用し食事会を開催した。古着店舗を地域の資源として活用してもらえるような提案はコロナ禍も重なりできていない。 左 京：奈良市からの委託業務への信頼は高く、新たな清掃業務依頼が2件あった。(人員不足により一部辞退している)小口現金の紛失があり管理方法について改善を行った。 大安寺：職員の加配により夏場の繁忙期を乗り切ることができた。クレームを受けることなく成果物の品質を維持することができた。現場での障害特性への理解を深めることについて、業務中心となる非常勤職員へは課題が残った。
②令和4年度事業実施にむけた課題	・戦力となる利用者の減少による人員不足 ・利用者・非常勤・常勤職員の業務の標準化 ・生活支援に比重が置かれるケースの増加 ・加齢に伴う利用者の健康状態の変化への対応 ・広報不足による求人活動の不振
③ 令和4年度活動目標	①A型以外の新たな事業種別、対象者、場所を決定する。 ②利用者・非常勤・常勤職員の業務の標準化によりそれぞれの役割を明確にする。 ③実習の受け入れ、求人活動を行うことで新規利用者2名増を目指す。 ④個別支援計画を期日通り作成する。
令和4年度地域との関わりについて	法人ホームページ等を活用し、事業所の広報活動を行う。
担当職員数	常勤10名／非常勤10名
予定利用者数	39名
概ね10万円以上の備品要望	資源回収場の屋外防寒設備
支援内容の充実に向けた取組について	

(作成者：飯田孝広・旭千波・松原裕子)

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	生活介護・日中一時支援事業 野の花舎
担当職員数	9名(非常勤・兼務を含む)
利用者実績	総利用者数 21名 平均 10名[概数]
①令和3年度活動目標とその評価	【令和3年度活動目標】 ①授産活動・焼き菓子工房含め、魅力がありかつ利用者が楽しんで取り組める商品を製作・販売することで工賃への還元を目指す。 ②より多くの利用者が取り組める活動を模索し続け、常に活動を強化していくことを目指す。 ③新規利用者獲得に向けて、野の花舎の活動周知を図る。 【令和3年度活動内容】 ☆活動ごとの状況 活動の選択制を導入しており、以下の各活動について、日々ご利用者自身で活動を選択していただいている。 ○焼き菓子工房→パン・焼き菓子販売 店舗での製造・販売および受注販売への対応、地域の学校やイベント等での出張販売を行なった。 ・出店販売(12月末時点実績) 7/15・16: はたらく障害者応援フェア in イオンモール大和郡山 10/27: 県庁販売 11/23・24: といろ市 11/26: 奈良東養護学校 昨年と比べ、わずかではあるが、外部イベントでの出店の機会が増えた。また、新たな地域イベントに参加する機会を得たことで、パン・焼き菓子はもちろん、野菜や授産品など、活動を広く知ってもらえる機会を得ることができた。 ○農園作業 地域の農園を借りて作業を行っている。土づくりや種まき、収穫、除草作業など、その時期に合わせた作業を実施している。 時期によって作業量に差があり、天候にも大きく左右される活動ではあるが、農作業そのものだけでなく、現地までの移動も徒歩であるため、体を動かす機会として活用できた。 ○地域清掃活動 町内のごみ拾いを活動として行っている。利用者の希望や歩行状態に合わせたコース編成を行い、役割分担しながら作業を進めている。 目的自体の認識は個人差があるものの、道具を持つことで、“ごみを拾う”ということへの意識づけはできてきている。 ○ポスティング作業 2週間に1回の作業として受託している。今年度より配布個所を増やして活動を行っている。 チラシの挟み込み・投函作業ともに利用者の得意なことに着目したうえで、その方に合う作業方法が確立されつつある。天候などで配布が進めにくい日はあったものの、時間内で配布を完了することができている。 ○創作活動 授産品や活動に必要な物品の製作を行っている。授産品については、主に牛乳パックイス・和紙ランタン・くすみボタンなどの製作を行い、イベントや焼き菓子工房店頭で販売を行った。 売り上げは徐々に上がっており、イベントでの認知を通して授産品に興味を持っていただけの方も出てきている。 ○健康促進のための活動 足の血行促進が必要な方を対象とした足湯。車で外出した先での散歩など、健康維持のための活動を行なった。 顕著な身体機能の低下が見られることは少ないものの、体の不調を

	訴えることが難しい利用者が多いため、グループホームでのボディチェックなど、外傷的なものについても随時日中と夜間が連携しながら把握できるようにしている。 ○買い物 事業所内で必要な物品の買い出しなどを活動として行った。コロナの影響で店内への出入りを控えた期間はあったが、館外の園芸用品コーナーなどは可能な限り利用者の方と一緒に見るようにした。また、一定コロナが収束していた時期についても、店内への出入りについては最小限にするようにし、感染拡大防止を心掛けた。 ○余暇活動 新型コロナウイルス感染予防のため、余暇活動は基本的に自粛しており、ハンドメイド講座（月 1 回）、音楽療法（月 1 回）についても、前年度に引き続き自粛している。 ○びあの一就労者対象のサロン 日曜のみの開所とし、コロナ拡大の折には開所日を減らすもしくは閉所するといった対応を行った。特に閉所している期間などは、利用者の動向の把握が難しいため、定期的にオンラインでお茶会を開くなどして状況の把握に努めた。また、個別に相談のある方については、定期的な面談を行うなど、就労継続に向けた支援を随時行った。 ☆活動収入（R4.1 時点、カッコ内は前年度末の売り上げ） ・パン・焼き菓子販売 - 店舗 : 641,318 円 (493,691 円) - 注文販売 : 197,150 円 (149,500 円) - イベント : 113,710 円 (25,720 円) ・授産品売り上げ : 7,820 円 (660 円) ・野菜売り上げ : 25,790 円 (前年度売り上げなし) ・ポスティング : 292,090 円 (134,936 円) 収入計 : 1,277,878 円 (804,507 円) ※参考 : R1 売り上げ : 1,392,914 円 【令和 3 年度活動評価・成果】 ○活動目標に対する評価・成果 ①新商品の開発や店舗のレイアウト変更にも力を入れたことで、来店いただく方の目を引き、商品を手に取ってもらえる機会を増やすことができた。そのことで売り上げ増・工賃増につながり、利用者に還元することができた。 ②活動メニューに関しては、ポスティングのエリア拡張、パン・クッキーの新商品開発、授産品の店頭販売、地域の店舗への野菜販売、新規イベントへの出店など、色々と新たな取り組みにチャレンジすることができた。活動自体の強化は着実に進めることができたと考えている。 ③新規利用者獲得については、コロナの影響もあり、積極的な活動は行っていない。学校からの実習者もいない状態であったが、コロナの影響が少なくなっていた時期に地域の支援学校を訪問し、活動内容の紹介を行っている。次年度以降、事業所紹介等の機会があれば積極的に参加していきたいと考えている。
②令和 4 度事業実施にむけた課題	・わずかではあるが、授産品や野菜の売り上げが発生するなど、新たに取り組んだ活動の成果が出てきている。ただ、野菜に関しては、年間を通して品物を供給することができておらず、作業を安定して提供できていない側面が見られた。 ・新規利用者を増やすことができていない。学校への周知は図っているが、実習などにつなげていくためのアピールが必要ではないかと考えている。 ・焼き菓子工房の老朽化が深刻であり、機材の故障による修繕・購入など

	に費用がかかる。また、建物自体の衛生面の維持にも課題があり、移転等も含めて引き続き検討していきたい。 ・焼き菓子工房において、現在衛生面の対策として個別包装を徹底している。しかし、結果的に販売開始時間が遅くなることや、利用者の作業の確保が難しくなる状況が続いている。
③令和4年度活動目標	①活動の強化を図っていったことで、集団で活動する場所は増えてきたが、徐々に支援の必要性が高まる利用者が増えることを想定し、個別ケースの状況に応じた活動の提供を行う。 ②①を実践するにあたり、臨床心理士との連携のもと、心理的アプローチから見て必要な支援を考える機会を設ける。 ③焼き菓子工房において、販売時間や利用者の作業確保のために、衛生面は保持しつつ、より早い時間から販売・作業の確保ができるような方法を考え実践していく。 ④コロナの影響は考慮しつつ、売上向上と地域とのつながり強化、活動の周知のために地域の販売イベントには積極的に参加することを目指す。 ⑤利用者の確保に向けた活動への積極的参加。特に学校関係での保護者向け説明会など、活動をアピールでできる場を積極的に活用する。新規の利用者2名を目指す。 ⑥就労支援の場であるびあののにおいて、コロナの影響で開所しづらい日が続いているが、オンラインの活用や電話連絡、関係機関との連携のもと、必要な相談や集いの場としての役割を継続していければと考えている。
令和4年度 地域との関わりについて	活動（農園作業、地域清掃、ポスティングなど）を通しての地域との関わりは継続していく。加えて、福祉関係以外の地域イベントにも機会があれば積極的な参加をして、地域との関わりを深めていければと考えている。
担当職員数	9名
予定利用者数	12名
概ね10万円以上の備品 要望	
支援内容の充実に向けた 取組について	心理士との連携は今後の個別アプローチを考えるにあたり、幅が広がるものになると考えている。ケースごとの対応などについての考えを深めることで、既存の活動における取り組み方、新しい活動の発掘などにもつながっていくものになると考えている。
その他	

（作成者：石井貴之）

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	共同生活援助 はなばたけ (GH はなばたけ・GH ほうれん)
担当職員数	10名(非常勤・兼務を含む)
利用者実績	入居18名・体験入居1名・短期入所5名
①令和3年度活動目標とその評価 ※令和3年4月1日～令和4年2月末までで記載すること。ただし、令和4年3月中に予定されているものは記載可能。	<令和3年度活動目標> ・個別支援計画に基づいた支援の徹底と適切な見直しを行う。 ・生活の場での役割やコミュニケーション機会の充実を図る。集団生活を通じて良好な社会生活を送れる支援をする。 ・利用者個々の生活スタイルを理解し合理的配慮に基づいた生活支援を行う。 ・感染症対応、医療的な支援について職員間で共有する。他職連携。 【令和3年度活動内容】 <全体> ・新型コロナウイルス感染拡大が本年度も続いている。3密を避け、マスク、消毒、換気を促し実践している。コロナ禍2年目に入りマスク、アルコール、手袋等の調達は入手しやすくなっている。また行政からの補助、支給もあって現状は備蓄できている。 ・ワクチン接種 職員は職域接種で5月中旬から6月中旬にかけて2回接種を終えている。利用者は7月から8月にかけて2回目の接種を終えている。 職員PCR検査2日以実施。陽性者なし。 ・ほうれん 10月退所者1名。11月入居者1名 <はなばたけ> 利用者9名は野の花舎(生活介護)所属で行動範囲も限定されているので感染防止には野の花舎と連携をとっている。 ・外食などホーム外でのイベント開催は控えている。月例イベントとして夕食メニューを工夫して季節感を出している。 ・自傷他傷に係わらず身体の傷のチェックを野の花舎と協力して行っている。野の花舎、朝礼で引継ぎノートを通じて行っている。ご家族への報告はその都度行っている。 ・重度の方が多く身体的、障がい特性、加齢による支援度も高くなっている。毎月第4金曜に臨床心理士の指導を受けている。看護師の介入も得て健康管理に留意している。 <ほうれん> ・A型事業所チェリッシュ(神殿・大安寺)勤務者が7名。 年度初めは野の花舎職員による朝夕の車送迎を行っている。同時間帯での朝食。出勤、帰所同時刻になるため部屋食を受け入れてくれた利用者2名。時間と空間の分離を図っている。拘りの強い方には生活スタイルの切り替えを日々促している。 ・年度末令和4年2月には入居利用者1名が感染している。濃厚接触者に関してはホーム居室待機。陽性者は神殿事業所2Fで10日間の隔離静養をしてもらっている。ほうれん担当職員の自宅待機中は柏木施設長、石井職員(野の花舎)、松原職員(チェリッシュ)のヘルプで対応してもらっている。2月下旬待機期間が解除され全員が通常勤務に戻っている。 <短期入所> ・利用者のニーズは高くなりあん相談員の調整もあったがコロナ感染の波が来るたびに利用中止をしている。結局6月から7月の5週間のみの利用に終わっている。 【令和3年度活動評価・成果】 ・チェリッシュ職員の週1階の宿直ヘルプで、職員配置の不足を補っている。期中7月に非常勤1名離職。8月非常勤1名入職。9月正職1名入職と人員の増加はあった。夜間勤務ができるまでに日がかかっている。 ・柏木施設長、石井野の花舎サビ管の指導で、GH業務の標準化を進めて

	いる。しかし、望まれているレベルには達していない。 ・昨年度も1名退所されている。土日全日開所ができないことが一番の要因である。結果、令和3年度も入居利用者1名退所。他法人、入所施設に移行。1名入居、(短期入所されていた方)空床型短期入所1室。入居9室は各棟満室である。現状維持で終わっている。
②令和4年度事業実施にむけた課題	・個別支援計画に基づいた支援を実践し見直しをしていく。 ・利用者の高齢化、重度化が増している。健康管理特に食事管理を通じて、生活習慣病対策を進めていく。 ・感染症対策は継続。 ・週土日開所の希望が家族から出続けている。職員体制上、現状の第1/第3土日の開所で行かなければならない。 ・夜間勤務ができる支援員の確保と育成が課題である。職員の高齢化も進んでいる。学生バイトの卒業も迫っている。職員体制を整えるために業務標準化に取り組みたい。
③令和4年度活動目標	・個別支援計画に基づいた支援の実践と適切な見直しを行う。(継続) ・利用者個々の生活スタイルを理解し、生活の場での役割やコミュニケーション機会の充実を図る。 ・感染症対応、医療的な支援について職員間で共有する。他職連携、外部機関との連携を図ってより良い生活環境を築く。 ・業務標準を整え、職員の資質向上を図る。
令和4年度地域との関わりについて	法人理念「地域で 地域と共に歩み 生きる」のもと、法蓮西町の自治会の一員として防災訓練、佐保川河川の清掃活動など地域活動への参加、交流を行っていく。地域の中で知的障害者が当たり前の生活を送れるよう交流を深める。
担当職員数	9名(非常勤・兼務を含む)
予定利用者数	入居18名/短期入所4名
概ね10万円以上の備品要望	特になし
支援内容の充実に向けた取組について	・医療面では利用者増に伴い看護師の指導のもと、健康管理に努める。さらに感染症対策に重点を置く。 ・コロナ禍の推移をみて余暇を楽しめるようホーム全体として参加できる企画をする。 ・個別支援の充実については「りあん」との連携や研修を通じて強化を図る。 ・生活支援員の資質向上、人材育成に向け、OJTの強化、内部研修、外部研修への参加していく。
その他	・奈良市GH連絡協議会との連携協力を深める。

(作成者：池田一弘)

令和3年度活動評価・報告(案)と令和4年度活動計画(案)

事業名(活動単位)	障害者就業・生活支援センター事業(障害者雇用促進法に基づき設置) (なら障害者就業・生活支援センター コンパス)
担当職員数	5名(すべて常勤)
利用者実績	登録者数約510名(身体・知的・精神・発達・難病など全障がい及び障がいに準ずる方)
① 令和3年度活動目標とその評価	はじめに 令和2年度に引き続き令和3年度もコロナ禍での活動により、主に対面での活動や支援(登録者との面談、企業への定着支援や実習、関係機関との交流、交流会や研修)の制限を余儀なくされた。しかし、この制限への代替がオンラインに代表される非対面型支援の拡大となり、それらの特徴を活かすことで、今までとは異なる角度からのアプローチが可能になり、今までとは違うアプローチでの支援方法の拡大と捉えることが出来た。 例えば対面における会話中心の支援は、言語情報過多が傾向として存在したが、オンラインという情報伝達制限の枠の中での視覚的情報を中心とした支援や、伝達情報の精査により、対面における支援に比べ、より障がい特性にあった支援ができたと分析している。研修については移動時間や交通費の縮小、遠方の研修でも参加できる気軽さなど、学びを深める機会を多く持つことができた。更に、在宅勤務の障がい者求人や実際の勤務増加など、数年前では考えられなかったことが福祉や雇用の現場でも起きた。 一方で『損失』したものもある。「つながり」である。例えば、障がい者を支援する上で欠かせない関係機関との連携について、対面回数や会話時間の減少により、機械的・事務的なつながりに終わってしまっている印象がある。登録者についても、電話や画面を通じての相談では、支援に必要な関係性の構築にこれまで以上の日数を有している。 私見だが、オンラインを中心とした関係構築においては、本来の意味での「つながる」上での大切な『余白』部分が欠落しているのではないかと考える。昨年「人は見た目が9割」という書籍がベストセラーになったが、対面して分かる表情や、肌感覚、ちょっとした雑談、何気ない仕草等、これが人と人との関係性を築く上で、非常に大切なものではないだろうか。これらを感じられないことによる『損失』は大きいと思う。 買い物のためには、まず外に一步踏み出し、日光や雨を視線や肌に感じたり、においなど刺激を、五感を通して全身で受けていた。しかし、ネットショッピングが発展することにより、自宅や会社内で自らの環境を変化させずに完結できるようになった。このこと自体は特に悪いことではない。その空いた時間をどのように有効に使い、こまごまとした外出の機会を、例えば家族とキャンプに行く時間にまとまって当てる、

更に自宅での活動の幅を広げる機会に利用するなど、『時間(機会)』をどのように生かすか、何に投資するのかが今後問われてくると考えている。

結論として、オンラインによる業務効率の向上を支援業務にどのように活用していくのか考えなければならない。コンパスが求められる業務や役割は多岐に渡り、現体制においても十分な支援が届けられているとはいいがたい。支援課題が多いケースと出会うことも少なくなく、障害者雇用に関する企業や地域住民の理解・協力もまだまだ必要である。本来の『つながり』の価値を大切にしながら、時代の流れに即した支援方法を取り、その発展で得た機会を更なる飛躍としていきたい。

【活動目標と評価】

1. 障がい者、企業への支援力向上

- ・障がい者支援については日々のケース実践、また、積極的に事例検討や研修の機会を設け、支援について検証や活用することが出来た。
- ・企業支援については、従来の特性や制度に加えて、他社事例や支援ツールなどの活用を提案する機会を意図的に設けた。雇用事例が少ない企業には雇用後の定着支援等のモデルケースを伝えることで、その後の支援や関係性構築に役立った。
- ・企業との接点（形式的以外）がまだ少ない、障がい特性の把握と同程度の規模感で企業の視点やニーズについて学ぶ定期的な機会がある。
- ・障がい者と企業とも、例えば細く長くつながっておき、何か課題が見つければすぐに対応できる関係性の構築、それらも支援力の一つとして重要と思う。

<参考数値>

職員の担当ケース数平均： 85 名

所内等での事例検討： 月 4 回程度（目標達成率：約 400%）

研修・会議への年間参加回数： 延べ 41 回（目標達成率：193%）

企業：企業からの個別相談件数 1003 件（前年比 15%増）

2. コンパス企画の充実

- ・今年度から人材育成や地域の支援力向上を目的とし、「なら圏域障がい者就労支援連携ネットワーク協議会」（略称ならシェアネット）を立ち上げた。圏域内（奈良市）の関係機関（就労移行支援事業所、HW、職業センターなど）に参加いただき、協議や研修、意見交換を行った。

<コンパス企画取り組み>

在職者交流会： 年 10 回実施（目標達成率：100%）

精神障害者等の職場定着を図るため SST 等を活用したグループワーク
：年 6 回実施（目標達成率：100%）

当事者会アドバイザー： 年 4 回参加（目標達成率：100%）

③ 令和4年度活動目標	年度運営方針 <u>1) 障がい者ニーズ把握、評価（アセスメント）</u> ①実習 年間を通してコンスタントに高いニーズにこれまで以上に応える。例年と違う取り組みとしては10社ほどの企業に協力をいただき、1～2か月の実習強化月間を設ける。行政実習と期間が重ならない6～7月を想定。この取り組みにより年間実習件数については令和3年度20%アップの54件を目指す。 ②SST等交流会 精神・発達障がい者対象の「SST等を活用したグループワーク（事業）」についてこれまでの認知行動療法のエッセンスを踏まえSSTに重きを置いた内容を実施。 また、同事業を実施する全国の就業生活支援センター10センター程度とオンラインを通じた意見交換会・勉強会を企画実施し、各センターの特色に応じた効果的な支援手法の共有を行う。 知的障がい者対象の交流会について、社会生活を行うスキルや就労定着をテーマとした会を年間10回程度行う。 ③研修等 評価手法や測定については、職業評価を実施している職業センターから目的や効果等を学ぶ機会を設けたり（年2回）、研修機会を通じて学びを深める。評価の必要性や導入手法等についてコンパスとして一定の見解を確立する。 <u>2) 人材育成</u> ①奈良シェアネット 人材育成を目的とした回数を増やす。年6回から年10回程度を想定している。年間計画を立て、講師を招いた研修相当の会についてはオンライン開催も取り入れ利便性向上や準備軽減を図る。 ②就ポツサロン 奈良県内の障がい者就業生活・支援センター職員対象に研修や意見交換会を実施する。センター担当1～2年目の職員を対象とした内容や、コアなテーマ設定を行い、それに応じた参加者を募る。年10回以上を設定する。 ③法人 ブリッジと共同で法人内職員研修を行い（年1回）、就労支援だけでなく就ポツの魅力を伝達。発信に関しては法人内外へHPを通し、月1回行う。センター職員にはこれまで以上にケース実践や企画を任せるが、それらの検証やフォロー体制などとワンセットで進める。 <u>3) 支援体制構築</u>
--------------------	--

	①ならシェアネット 目的である地域の支援体制構築を継続実施。対面実施の回数は6回以上とし、参加機関職員同士の意見交換の機会を重視する。 ②基幹センター位置づけの先行 国から1～2年先に明示されるであろう地域における就労支援の基幹的役割。ケース実践とコーディネーター実践、この2つを意識して取り組む。基幹センターであっても、日々のケース実践は欠かせないもの、それが無ければ根拠も専門性も持ち合わせられない。課題が多いとされるケースにも意識的に関わっていく。 ③企業との関わり 最も弱い部分と考えている。定着支援を通しての関わりは一定あるが、個々のケースでなく、県内の障がい者雇用や支援機関との連携について等になると深い関わりが出来ていない。奈良県や労働局、奈良市など行政機関を通して必要性を訴えとともに機会を設ける。合わせて雇用事例を積み上げることで個別企業との深い関わりや他社への口コミにもつなげたい。 他に、事業所アンケート（労働局提出分）の依頼先を所定の5箇所から独自に増やし、より多くの意見や交流のツールとする。		
④令和4年度 地域との関わりについて	・「奈良市の障がい者就労や雇用についてはコンパスに」という姿勢で、地域の障がい者や企業や関係機関などからの相談や困りごとに垣根を設けずに対応していく。安心して相談できる支援センターと地域で役立つ支援機関として根付いていきたい。 ・地域の企業への法人アピール（業務を通して日常的に）。 ・登録者や関係者との関り（業務を通して日常的に）。 ・地域課題の共有や解決（協議会、関係機関との連携を通して） ・奈良市役所相談窓口を継続し、市民相談を定期的に行う（週1回）。		
担当職員数	5名（労働局4名、県1名）		
予定利用者数	新規70名、登録解除10名 登録者数計570名		
予算		項目	金額(単位：円)
	収入	約3250万	労働局委託費約2770万、県委託費約480万
	支出	約3250万	人件費、事業費等詳細については別途予算書有
その他	・相談支援体制向上について県や奈良市と協議や意見を行う。 ・奈良県全体の福祉人材育成・確保を考える		

(作成者：柏木要)

令和3年度活動報告・評価(案)と令和4年度事業計画(案)

事業名(活動単位)	総務部	
担当職員数	常勤3名 時短勤務2名 非常勤3名	
令和3年度 活動報告・評価	Q1 ・令和3年度決算業務 新しい会計ソフトでの初決算処理のため、今までのやり方から今後に向けて形になるように模索しながら進める。 ・労働基準監督署抜き打ち 葛城労基署にて指定された書類の提出。職員の出勤時間・退勤時間がわかるもの等指摘されるも、文書による指導通知は今回は出さないとのこと。 Q2 ・ホームヴィレッジD棟・E棟 建設プロジェクト ホームヴィレッジの空き土地を活用し、高齢化対応のGH(定員5名)と行動障害に対応したGH(定員5名)+ショート1名の2棟を計画。ただし、県の補助金が降りなければ来年度に持ち越し。 Q3 ・明日香村古民家プロジェクト 日本財団補助率 100%の補助金「みらいの福祉施設建設プロジェクト」を活用し、パン工房(B型)を明日香村に移転し、事業の発展、利用率の引き上げや赤字収支の改善を図る。 補助金審査には建物のデザイン性、地域にひらかれた福祉、継続・発展性などが求められ、11月に1次審査(書類審査)を通過すると、12月に2次審査(プレゼンテーション)を経て2~3月頃に助成決定の発表がある。 Q4 新規事務職員として谷口職員が入職した。現在は森の業務を手伝い少しずつ任せていき引継ぎを進めていく。	
令和4年度 活動目標	・これまでの業務委託を見直し、無駄に出費されていないか確認する。より効果的な内容や業者があれば検討する。 ・月次の資金収支をより早く正確に把握し、財政状況をリアルタイムに提示する。またその分析をして法人運営・財政改善に貢献する。 ・情報共有を強化し、事務所対応のレスポンス向上を図る。	
令和4年度 活動計画	・IT化による業務効率化 点在する事業所にインターネット環境を整備し、できる限り移動や接触を抑えながら情報共有を図る。データのやり取り、WEB会議等の活用。 ・長期計画 現在の労務・給与・会計担当、請求担当、消防・保険担当と各業務によって分かれている体制から、各事務員に担当事業所を割り振り、会計入力、手当計算、労務手続き、請求業務、その他諸々を誰でも対応できる体制を作っていく。将来の各事業の独立採算制になった場合でも対応可能にする。	
予 算	項目	金額(単位:円)
	人件費	29,000,000(正職:3人・時短:2名・パート:3名)
	燃料費	60,000
	文具等消耗品	120,000
	PC使用料	400,000(50,000×8台)
	NAS(共有ハードディスク)	500,000
	合計	30,080,000
担当職員予定数	常勤3名 時短勤務2名 非常勤3名	
活動内容の充実に向けた取組について	・各種研修会への参加(WEB会議含む)。 ・IT化、クラウド化、ネットワーク化による業務効率の向上と経費削減。 ・業務の再振り分けと引き継ぎに向けた研修等。	
その他		

(作成者: 森孝之)

Ⅶ：年間研修計画

※新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を取り行う。

※研修時期については、新規採用者の採用状況に応じて変更する

1. 新規採用者研修

①第1回：2022年(令和4年)4～6月実施

＜内容＞法人理念の理解／法人諸規定の理解／医療及び栄養に関する基礎理解
障害特性の基礎理解と障害者権利擁護／障害福祉に関する歴史

②第2回：2022年(令和4年)8月実施

＜内容＞活動の振り返り(自己分析)／障害特性の理解(自閉症・行動障害)
支援記録における留意点／障害福祉サービスに関する理解

③第3回：2022年(令和4年)10月実施

＜内容＞活動の振り返り(自己分析)／障害特性の理解／個別支援計画の作成等

④第4回：2023年(令和5年)1月実施

＜内容＞活動の振り返り／リスクマネジメント

2. 現任職員研修

①第1回：2022年6月実施

＜内容＞個別支援計画の作成／虐待防止と身体拘束の禁止／感染症予防等

②第2回：2022年9月実施

＜内容＞リスクマネジメント

③第3回：2022年12月実施

＜内容＞記録とその活用／虐待防止と身体拘束の禁止／感染症予防等

④第4回：2023年3月実施

＜内容＞強度行動障害者支援

3. CO／L／SL等研修

①第1回：2022年5月実施

＜内容＞ハラスメントについて

②第2回：2022年10月実施

＜内容＞人材育成と組織力の強化について

③第3回：2022年12月実施

＜内容＞地域における法人の役割について

4. 外部研修

福祉人材キャリアパス研修(初任・中堅・チームリーダー)／喀痰吸引研修

強度行動障害者従事者養成研修／相談支援専門員研修／サービス管理責任者研修

障害者権利擁護・虐待防止研修

その他、社会福祉経営者協議会研修、日本知的障害者施設協会研修等

Ⅷ：年間行事予定

<法人>

・職員健康診断(5月)

・夢まつり(10月)

・たかとり城まつり(11月23日)

その他、各エリア・事業計画に記載

4月			5月			6月			7月			8月			9月								
日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)						
1	金	○	1	日	×	1	水	○	1	金	○	1	月	○	1	木	○						
2	土	×	2	月	○	2	木	○	2	土	×	2	火	○	2	金	○						
3	日	×	3	火	憲法記念日	○	3	金	○	3	日	×	3	水	○	3	土	×					
4	月	○	4	水	みどりの日	○	4	土	×	4	月	○	4	木	○	4	日	×					
5	火	○	5	木	こどもの日	○	5	日	×	5	火	○	5	金	○	5	月	○					
6	水	○	6	金		○	6	月	○	6	水	○	6	土	×	6	火	○					
7	木	○	7	土	×	7	火	○	7	木	○	7	日	×	7	水	○						
8	金	○	8	日	×	8	水	○	8	金	○	8	月	○	8	木	○						
9	土	×	9	月		○	9	木		○	9	土	×	9	火		○						
10	日	×	10	火		○	10	金		○	10	日	×	10	水		○						
11	月		○	11	水		○	11	土	×	11	月		○	11	木	山の日	○					
12	火		○	12	木		○	12	日	×	12	火		○	12	金		○					
13	水		○	13	金		○	13	月		○	13	水		○	13	土	×					
14	木		○	14	土		×	14	火		○	14	木		○	14	日	×					
15	金		○	15	日		×	15	水		○	15	金		○	15	月		○				
16	土		×	16	月		○	16	木		○	16	土		×	16	火		○				
17	日		×	17	火		○	17	金		○	17	日		×	17	水		○				
18	月		○	18	水		○	18	土	×	18	月	海の日	○	18	木		○					
19	火		○	19	木		○	19	日	×	19	火		○	19	金		○					
20	水		○	20	金		○	20	月		○	20	水		○	20	土	×	20	火		○	
21	木		○	21	土		×	21	火		○	21	木		○	21	日	×	21	水		○	
22	金		○	22	日		×	22	水		○	22	金		○	22	月		○	22	木		○
23	土		×	23	月		○	23	木		○	23	土		×	23	火		○	23	金	秋分の日	○
24	日		×	24	火		○	24	金		○	24	日		×	24	水		○	24	土		×
25	月		○	25	水		○	25	土	×	25	月		○	25	木		○	25	日		×	
26	火		○	26	木		○	26	日	×	26	火		○	26	金		○	26	月		○	
27	水		○	27	金		○	27	月		○	27	水		○	27	土	×	27	火		○	
28	木		○	28	土		×	28	火		○	28	木		○	28	日	×	28	水		○	
29	金	昭和の日	○	29	日		×	29	水		○	29	金		○	29	月		○	29	木		○
30	土		×	30	月		○	30	木		○	30	土		×	30	火		○	30	金		○
				31	火		○				○	31	日		×	31	水		○				

10月			11月			12月			1月			2月			3月			
日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	日	曜日	勤務(○)	
1	土	×	1	火	○	1	木	○	1	日	×	1	水	○	1	水	○	
2	日	×	2	水	○	2	金	○	2	月	×	2	木	○	2	木	○	
3	月	○	3	木	○	3	土	×	3	火	×	3	金	○	3	金	○	
4	火	○	4	金	○	4	日	×	4	水	○	4	土	×	4	土	×	
5	水	○	5	土	×	5	月	○	5	木	○	5	日	×	5	日	×	
6	木	○	6	日	×	6	火	○	6	金	○	6	月	○	6	月	○	
7	金	○	7	月	○	7	水	○	7	土	×	7	火	○	7	火	○	
8	土	×	8	火	○	8	木	○	8	日	×	8	水	○	8	水	○	
9	日	×	9	水	○	9	金	○	9	月	○	9	木	○	9	木	○	
10	月	スポーツの日	○	10	木	○	10	土	×	10	火	○	10	金	○	10	金	○
11	火	○	11	金	○	11	日	×	11	水	○	11	土	建国記念の日	×	11	土	×
12	水	○	12	土	×	12	月	○	12	木	○	12	日	×	12	日	×	
13	木	○	13	日	×	13	火	○	13	金	○	13	月	○	13	月	○	
14	金	○	14	月	○	14	水	○	14	土	×	14	火	○	14	火	○	
15	土	×	15	火	○	15	木	○	15	日	×	15	水	○	15	水	○	
16	日	×	16	水	○	16	金	○	16	月	○	16	木	○	16	木	○	
17	月	○	17	木	○	17	土	×	17	火	○	17	金	○	17	金	○	
18	火	○	18	金	○	18	日	×	18	水	○	18	土	×	18	土	×	
19	水	○	19	土	×	19	月	○	19	木	○	19	日	×	19	日	×	
20	木	○	20	日	×	20	火	○	20	金	○	20	月	○	20	月	○	
21	金	○	21	月	○	21	水	○	21	土	×	21	火	○	21	火	春分の日	
22	土	×	22	火	○	22	木	○	22	日	×	22	水	○	22	水	○	
23	日	×	23	水	勤労感謝の日	○	23	金	○	23	月	○	23	木	天皇誕生日	○	23	木
24	月	○	24	木	○	24	土	×	24	火	○	24	金	○	24	金	○	
25	火	○	25	金	○	25	日	×	25	水	○	25	土	×	25	土	×	
26	水	○	26	土	×	26	月	○	26	木	○	26	日	×	26	日	×	
27	木	○	27	日	×	27	火	○	27	金	○	27	月	○	27	月	○	
28	金	○	28	月	○	28	水	○	28	土	×	28	火	○	28	火	○	
29	土	×	29	火	○	29	木	通所年末閉所	○	29	日	×			29	水	○	
30	日	×	30	水	○	30	金	通所年末閉所	○	30	月	○			30	木	○	
31	月	○				31	土	正月休み	×	31	火	○			31	金	○	